

酒田市文化芸術推進計画関連事業一覧

事業名		文化芸術推進事業																																											「★」は事後評価シートの添付がある事業							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43								
		★			★		★	★	★	★	★		★				★	★	★	★	★			★	★						★		★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★							
文化芸術推進計画 基本的施策		生涯学習推進講座開催事業	生涯学習施設「里仁館」運営支援事業	美術館管理事業	文化施設長寿命化対策事業	写真展示館管理事業	酒田市文化芸術推進事業	市民芸術祭開催事業	文化財保存活動支援事業	史跡旧館屋修復事業	未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業	庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業	土門拳文化賞顕彰事業	小学生観劇教室	小中学校音楽教室支援事業	文化活動重点事業	酒田コミュニケーションポート整備事業	ブックスタート支援事業（子ども読書活動推進事業を含む）	光丘文庫デジタルアーカイブ事業	子ども読書活動推進事業	広報広聴活動推進事業	山居倉庫周辺整備事業	さかたらしい景観づくり事業	客船誘致事業	国際交流推進事業	青少年国内外交流事業	「少年の翼」交流事業	中学生海外派遣事業「はばたき」	旧割烹小幡整備検討事業	北前船寄港地交流推進事業（ホストタウン・日本遺産関連負担金を含む）	酒の酒田の酒まつり事業	コミュニティ振興事業	市民協働・公益活動推進事業	地域活動支援センター事業	老人クラブ助成事業	食習慣改善事業	さかた農産物消費拡大事業	地魚ブランド力向上・安定供給推進事業	地域振興事業（八幡）	八幡地域文化振興事業	松山にぎわい創出事業	地域振興事業（松山）	松山の宝推進事業	地域振興事業（平田）	計							
		社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	社会教育文化課	学校教育課	学校教育課	学校教育課	図書館	図書館	図書館	図書館	市長公室	都市デザイン課	都市デザイン課	商工港湾課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	交流観光課	まちづくり推進課	まちづくり推進課	福祉企画課	福祉企画課	健康課	農政課	農林水産課	八幡総合支所	八幡総合支所	松山総合支所	松山総合支所	松山総合支所	平田総合支所								
①	文化芸術活動を行う環境の整備	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○																										○		12							
②	誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○		○																										○		○		17			
③	学校教育における文化芸術活動の充実					○				○				○	○	○																																	5			
④	将来の文化芸術の担い手の育成	○	○	○	○	○	○	○	○							○																																	10			
⑤	文化芸術活動を支える人材の育成	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○																																		12		
⑥	市民との協働・共創による事業展開					○	○																																											2		
⑦	地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり		○				○																																										7			
⑧	文化芸術による国際交流																							○	○	○	○	○																						6		
⑨	専門性の高い文化の仕掛け人の配置					○																																												1		
⑩	文化芸術による社会包摂					○											○	○																																	4	
⑪	文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化		○			○																																												7		
⑫	多様な分野との連携及びネットワークづくり					○																																													8	
⑬	文化財等の地域資源の活用					○			○	○								○																																	14	
⑭	酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出																																																		3	
⑮	文化施設の活用			○	○	○	○	○	○	○							○																																		9	
⑯	伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信																																																		5	
⑰	観光との連携			○	○	○	○																																													5
⑱	産業との連携																																																			1
⑲	組織体制の強化							○																																												1
⑳	市民の視点にたった情報発信・広報戦略					○																																														3
計		4	6	6	1	6	13	9	5	3	5	1	2	1	1	1	6	2	2	2	1	1	1	3	3	3	3	3	2	2	1	3	3	3	3	2	1	1	1	4	3	1	4	3	4	132						

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	1目 生涯学習振興費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事業名	生涯学習推進講座開催事業 【継続事業】				
予算現額①	2,115,000	支出済額②	1,772,484	翌年度繰越額③	0
				不用額①-②-③	342,516
				執行率②/①	83.8%
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	0	県支出金	74,000	市債	0
				その他	22,000
				一般財源	1,676,484
前年度予算現額	1,762,000	前年度支出済額④	1,240,644	差額②-④	531,840
(単位：円)					
目的・趣旨					
自己の充実、生活の向上、豊かな人生を送るための講座や地域人材を育成する講座を開催し、様々な事業において地域人材の活躍の場を創出することによって、地域の行事等に関心をもつ市民を増やし、地域づくりの実践につなげていく。					
○事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> 人生はマルチステージと捉えた学びの提供 「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供 学んだ成果を地域に生かせる学習機会の提供 地域・家庭・学校・認定子ども園・保育所等と連携した事業の推進 					
○事業実績・説明					
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ振興会の職員等を対象に、これからの社会に対応した持続可能な地域活動を求めて～地域と学校との「相互連携」から「協働」へ～と題して、地域の教育力向上スキルアップ講座を開催した。14コミュニティ振興会、参加者数29人。 現代の変化の激しい社会を生き抜くために基礎となる経済・金融について理解を深めるために、「暮らしに役立つ金融講座」を初めて実施した。実施回数8回、参加者数77人。 夏休み宿題お手伝い教室、新成人のマナーアップ講座、赤ちゃん登校日、風あげ大会の4事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。 					
(講座、回、人)					
令和3年度					
講座区分	講座数	実施回数	延べ参加者数		
乳幼児	1	11	630		
高齢期	0	0	0		
全世代	5	16	118		
課題解決ほか	15	345	6,011		
催し	2	2	926		
合計	23	374	7,685		
満足度	96%				
備考	○主な特定財源 家庭教育推進事業費補助金(県)		74,000円		
	講座受講料		22,000円		

生涯学習推進講座開催事業 事後評価シート				
上位 施策 の 概要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策1 社会教育の振興		
	個別計画	酒田生涯学習推進計画(令和2年度～令和11年度)		
	上位施策の最終成果			
	社会の変化に対応した生涯学習の機会を提供することにより、個人が地域社会に自立的に参画するとともに、身近な地域活動への参加による交流の促進と人材の育成を通して地域コミュニティが活性化すること。			
概要	成果指標		目標値等	
	【総】地域の行事に参加した市民の割合(令和4年度)		60%	
	【個】生涯学習活動を行っている市民の割合(令和6年度)		70%	
担当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活動・手段指標		目標値等	
	講座延べ参加者数		7,685人	
	有効性	項目	評価	説明
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	新型コロナウイルス感染症拡大防止として、いわゆる「三密」を避けるために多くの事業が中止、規模の縮小、講座回数の減少につながったためと捉えている。
		本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	趣味的講座ではなく、長期的には、人づくり、まちづくりに資するような講座を実施している。
	必要性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上っているか。	△	満足度調査からは、参加者の満足度は高いことが窺えるが、成果や指標についての項目も追加していきたいと考えている。
		事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	△	市民の要望に対し、十分とはいえないメニューであると捉えている。
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	民間では取り組みにくいことを、社会教育、生涯学習推進の観点から実施している。
	効率性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	将来の地域を担う人づくりのためにも必要なものと捉えている。
		事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	当初の目的を達成したと思われる事業については終了している。
執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		-		
R5以降の 方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの事業が中止、規模の縮小、講座回数が減少したが、令和3年度は多少回復したことによる。	
	継続(事務事業を継続)		参加者の声を聞きながら、生涯学習推進計画に基づき、市民ニーズに応える講座やふるさと教育を意識した内容の講座を取り入れていく。	
備考				

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	2目 文化振興費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事 業 名	文化施設長寿命化対策事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
171,184,000	171,183,100	0	900	99.9%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	171,183,100	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
188,352,000	185,869,540	△14,686,440			
目 的 ・ 趣 旨					
文化施設について予防修繕的な視点による対策を施すことで、将来の修繕費用を抑制するとともに、機能の維持及び長寿命化を図る。					
○事業内容 酒田市民会館について、安全性の向上及び機能の劣化防止等の対策を行った。					
○事業実績・説明					
(1) 工事監理業務委託料					
内 容		金 額			
外壁改修工事監理業務委託		1,265,000円			
(2) 建築工事費					
内 容		金 額			
外壁等改修一期工事		62,987,100円			
(3) 機械設備工事費					
内 容		金 額			
舞台音響設備改修工事		86,801,000円			
舞台吊物機構改修工事		20,130,000円			
備考					

文化施設長寿命化対策事業 事後評価シート						
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進				
	個別計画	酒田市文化芸術推進計画（平成30年度～令和9年度）				
	上位施策の最終成果					
	文化施設の適切な機器の更新や施設整備により、多様な文化芸術活動が可能となる場を提供すること。					
事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	成 果 指 標		目標値等	R3実績値等		
	【総】文化芸術活動に参加した市民の割合（令和4年度）		45%	26.9%		
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等	R3実績値等		
			年度内事業の完了	完了		
	有 効 性	項目	評価	説明		
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	計画的に発注・契約事務を行い、事業を実施したことで年度内完了に至った。		
	必 要 性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	市民の文化芸術活動に係る環境整備が図られ、多様な文化芸術活動が可能となるため適正である。		
		上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、成果指標の目標値は達成できなかったが、施設の長寿命化が図られ、市民の文化芸術活動に係る環境を整えることができた。		
	効 率 性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	施設の計画的な維持、長寿命化は、市民の文化芸術活動にかかる環境を整備するものであり、ニーズを反映したものである。		
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	市が所有する文化施設であるため、ハード面の整備は市の責務として実施する必要がある。		
	R5以降の方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	文化施設は市民が文化芸術活動を行う拠点であるため、施設の長寿命化を図ることは必要なことである。		
事業の効率化に向けた取組は行われているか。		○	関係部署、工事受注者とも連携し計画的に事業完了するよう実施した。			
執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		-				
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-				
備考	R5以降の方向性	継続（事務事業を継続）	文化施設の安全性や緊急性などを考慮し、優先順位をつけ、長寿命化実施計画に基づくより効果的な劣化防止対策を行っていく。			

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	2目 文化振興費	所 属 R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課																																																								
事業名	文化芸術推進事業 【継続事業】																																																											
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①																																																								
24,448,000	23,836,161	0	611,839	97.5%																																																								
支出済額②の財源内訳																																																												
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源																																																								
254,197	687,066	0	13,412,325	9,482,573																																																								
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)																																																									
16,719,000	15,787,611	8,048,550																																																										
目的・趣旨																																																												
酒田市文化芸術基本条例及び酒田市文化芸術推進計画に掲げる「社会包摂と育成」の方針のもと、文化芸術全般にわたる多様な事業を実施することにより、総合的に文化芸術を推進する。																																																												
○事業内容 多くの市民が文化芸術にふれる機会を得ることができるよう、国内一流のアーティストが小学校などでクラスコンサートを行う事業（以下「アウトリーチ」という。）や希望ホール、美術館などを活用した事業を実施した。																																																												
○事業実績・説明 (1) 文化芸術推進事業																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>実施回数</th> <th>参加者数</th> <th>事業種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ダンスアウトリーチ</td><td>3回</td><td>89人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>ダンスワークショップ</td><td>1回</td><td>15人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>ダンス公演</td><td>1回</td><td>60人</td><td>鑑賞</td></tr> <tr><td>音楽アウトリーチ</td><td>29回</td><td>750人</td><td>参加・体験・鑑賞</td></tr> <tr><td>音楽ワークショップ</td><td>6回</td><td>358人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>リサイタル・コンサート</td><td>6回</td><td>1,326人</td><td>鑑賞</td></tr> <tr><td>アートスタート事業</td><td>4回</td><td>81人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>SAKATAアートマルシェ</td><td>4回</td><td>2,701人</td><td>参加・体験・鑑賞</td></tr> <tr><td>工藤俊幸氏による合唱指導</td><td>6回</td><td>648人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>山形交響楽団楽器クリニック</td><td>2回</td><td>59人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>宝くじ文化公演HAPPY JAZZ HOUR</td><td>1回</td><td>545人</td><td>鑑賞</td></tr> <tr><td>希望ホールサポーター研修</td><td>3回</td><td>35人</td><td>参加・体験</td></tr> <tr><td>計</td><td>66回</td><td>6,667人</td><td></td></tr> </tbody> </table>					事業内容	実施回数	参加者数	事業種別	ダンスアウトリーチ	3回	89人	参加・体験	ダンスワークショップ	1回	15人	参加・体験	ダンス公演	1回	60人	鑑賞	音楽アウトリーチ	29回	750人	参加・体験・鑑賞	音楽ワークショップ	6回	358人	参加・体験	リサイタル・コンサート	6回	1,326人	鑑賞	アートスタート事業	4回	81人	参加・体験	SAKATAアートマルシェ	4回	2,701人	参加・体験・鑑賞	工藤俊幸氏による合唱指導	6回	648人	参加・体験	山形交響楽団楽器クリニック	2回	59人	参加・体験	宝くじ文化公演HAPPY JAZZ HOUR	1回	545人	鑑賞	希望ホールサポーター研修	3回	35人	参加・体験	計	66回	6,667人	
事業内容	実施回数	参加者数	事業種別																																																									
ダンスアウトリーチ	3回	89人	参加・体験																																																									
ダンスワークショップ	1回	15人	参加・体験																																																									
ダンス公演	1回	60人	鑑賞																																																									
音楽アウトリーチ	29回	750人	参加・体験・鑑賞																																																									
音楽ワークショップ	6回	358人	参加・体験																																																									
リサイタル・コンサート	6回	1,326人	鑑賞																																																									
アートスタート事業	4回	81人	参加・体験																																																									
SAKATAアートマルシェ	4回	2,701人	参加・体験・鑑賞																																																									
工藤俊幸氏による合唱指導	6回	648人	参加・体験																																																									
山形交響楽団楽器クリニック	2回	59人	参加・体験																																																									
宝くじ文化公演HAPPY JAZZ HOUR	1回	545人	鑑賞																																																									
希望ホールサポーター研修	3回	35人	参加・体験																																																									
計	66回	6,667人																																																										
(2) 山形交響楽団屋内定期演奏会酒田公演事業																																																												
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>山形交響楽団屋内定期演奏会第26回酒田公演</td> <td>1回</td> <td>934人</td> <td>鑑賞</td> </tr> </tbody> </table>					山形交響楽団屋内定期演奏会第26回酒田公演	1回	934人	鑑賞																																																				
山形交響楽団屋内定期演奏会第26回酒田公演	1回	934人	鑑賞																																																									
備考	○主な特定財源 希望ホール振興基金繰入金 8,700,000円 一般財団法人地域創造助成金 4,700,000円 音楽団体活用事業費補助金(県) 560,000円																																																											

文化芸術推進事業 事後評価シート			
上位 施策 の 概要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進	
	個別計画	酒田市文化芸術推進計画(平成30年度~令和9年度)	
	上位施策の最終成果		
	総合的に文化芸術の推進に取り組むことにより、自由で多様性を認める心豊かな市民生活と、誇りの持てる酒田らしさを創造すること。		
担当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活動・手段指標		
	ワークショップ・アウトリーチの体験型事業の実施数	15回 58回	
	地域資源に着目した事業の実施数	2回 2回	
	項目	評価	説明
有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	アウトリーチについて、市内小学校へ直接訪問し事業の実施を依頼したことにより、活動指標の目標値を上回ることができた。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	主に小学生などを対象とした事業であるため、長期的な視点で見る必要があるが、多様な文化芸術に触れることで心豊かな子どもたちの育成に寄与している。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	成果指標の目標値には届かなかったが、それぞれの事業の充実を図り、参加者アンケート結果においても好評であったため、着実に成果が上がっている。
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	学識経験者や学校教育経験者などで構成する酒田市文化芸術推進審議会に諮ったうえで事業を実施している。
必要性	本市が行わなければならない事業なのか。	○	特にアウトリーチについては、学校の授業に取り入れることが最も効果的な実施方法である。
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	市民が幅広く文化芸術に触れる機会を数多く創出している。
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	事業を実施した小学校などからの意見や感想を次年度以降の事業に反映させている。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
効率性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	アウトリーチについて、市内小学校21校で実施したため、事業費が増加したものの。
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	推進体制の強化を図りながら、さらに市民との協働・共創に重点を置いた事業展開を継続する。
備考			

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	2目 文化振興費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事 業 名	市民芸術祭開催事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
2,485,000	2,484,000	0	1,000	99.9%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	2,484,000	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
1,901,000	1,900,920	583,080			
目 的 ・ 趣 旨					
市民の文化芸術活動を広く公表する場として、酒田市民芸術祭を開催することで、文化芸術に対する市民の興味関心の向上を図る。					
○事業内容 酒田市、酒田市教育委員会、酒田市芸術文化協会などで構成する酒田市民芸術祭実行委員会で酒田市民芸術祭を開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、不参加の団体はあったものの、感染防止対策を講じたうえで30団体が参加し12,154人を集客した。					
○事業実績・説明 ・参加団体数等					
年度	参加団体数	入場者数			
令和元年度	40団体	24,049人			
令和2年度	17団体	4,785人			
令和3年度	30団体	12,154人			
備考					

市民芸術祭開催事業 事後評価シート					
上位 施策 の 概 要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進			
	個別計画	酒田市文化芸術推進計画（平成30年度～令和9年度）			
	上位施策の最終成果				
	誰もが身近に多様な文化芸術を鑑賞するとともに、文化芸術活動を活発に行うことができる文化的環境を整備すること。				
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	成果指標		目標値等	R3実績値等	
	【総】文化芸術活動に参加した市民の割合（令和4年度）		45%	26.9%	
活動・手段指標			目標値等	R3実績値等	
市民芸術祭入場者数			25,000人	12,154人	
事 業 の 概 要	項目	評価	説明		
	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。		新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染防止対策を講じたうえで、入場者数を制限して実施したため。		
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	文化芸術活動を行う者が活動成果を発表することで、身近に文化芸術を鑑賞する機会を提供することができ、より多くの市民が文化芸術に触れる機会の提供ができる。		
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	新型コロナウイルス感染症の拡大により、目標値は達成できなかったが、感染防止対策を講じて市民芸術祭を実施し、市民が文化芸術を鑑賞する機会を創出した。		
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	市民芸術祭の実施に向けて、市と芸術文化協会などで構成する実行委員会や担当者会議において実施内容を検討しているため、市民のニーズを反映している。		
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	継続して市民の文化芸術活動支援する有効な手段の一つとして、市が主体となり継続すべき事業である。		
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	多種多様な舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭の開催により、身近に文化芸術を鑑賞する機会を提供している。		
効 率 性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	市、教育委員会及び芸術文化協会などと連携を取りながら、後継者育成の効果的な周知方法・参加しやすい事業内容等の検討を行っている。		
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-			
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により市民芸術祭の開催を中止したため。		
R5以降の方向性	その他（右欄に記載）	本事業は令和3年度で廃止するが、市民芸術祭については、多くの市民が参加できるよう、開催期間等を延長するなど関係団体と協議を行いながら実施する。			
備考					

款 項 目	10款 教育費	4 項 生涯学習費	3 目 文化財保護費	所 属 R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事 業 名	文化財保存活動支援事業 【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
1,519,000	869,000	0	650,000	57.2%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	0	0	869,000
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
559,000	542,000	327,000		
目 的 ・ 趣 旨				
国、県及び市指定の文化財又は指定されていない無形民俗文化財の保存活動を行っている団体等に対する補助又は酒田市民俗芸能保存会を通じた活動に対する支援を行うことにより、文化財の保存と伝承を図る。				
○事業内容 国、県及び市指定文化財、無形民俗文化財の保存伝承活動を行っている団体に対し補助金を交付した。				
○事業実績・説明				
補助団体	補助金額	活動内容		
公益財団法人 本間美術館	230,000円	国指定名勝である本間氏別邸庭園「鶴舞園」の維持管理		
總光寺	145,000円	国指定名勝である總光寺庭園及び県指定天然記念物である總光寺参道のキノコ杉の管理保存		
酒田市民俗芸能保存会	97,000円	加盟団体の活動や後継者育成活動、衣裳等購入、映像記録保存事業		
松山能振興会	310,000円	大寒能の開催、後継者育成活動、能装束等の購入		
松山藩荻野流砲術伝承保存会	87,000円	荻野流砲術の古文書解読や射法研修、演武等の活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・本間氏別邸庭園「鶴舞園」、總光寺庭園については、庭園を良好な状態に保つことで、観光地としても魅力のある場所になっている。 ・伝統芸能の保存・継承を支援するため、酒田市民俗芸能保存会、松山藩荻野流砲術伝承保存会、松山能振興会を支援した。 				
備考				

文化財保存活動支援事業 事後評価シート			
総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進		
個別計画	酒田市民文化芸術推進計画(平成30年度~令和9年度)		
上位	上位施策の最終成果		
施策	文化財を維持・公開することで、市民の文化財に触れる機会を確保し、文化財の保護に対する意識を高め、ふるさとへの誇りと愛着を持つことができる地域社会の実現を図ること。		
の	成果指標	目標値等	R3実績値等
概要	【個】文化資源について誇りを持っている市民の割合(令和4年度)	79%	53.9%
	活動・手段指標	目標値等	R3実績値等
	国・県・市指定文化財の指定又は登録数	398件	391件
	民俗芸能保存会加盟団体数	34団体	34団体
担当課	項目	評価	説明
有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	地域の貴重な財産である指定文化財及び無形民俗文化財などの保護や保存継承を支援することにより、各団体や所有者の文化財保護の意識が高められたため。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	文化財の保存活動を行っている団体に支援することで、指定文化財の維持・増加が図られ、市民の文化財に触れる機会が多くなる。
必要性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	民俗芸能保存会加盟団体数の維持又は増加は、当事業の支援の結果、事業目的である各文化財の保存と伝承を図られた。
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	指定文化財を保護するための制約や経済的負担があるため、所有者や管理する方への支援は必要である。
方向性	本市が行わなければならない事業なのか。	○	公的負担による文化財保護への支援は妥当と考える。
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	市民の意識の醸成には、各文化財が適切な形で保存・継承されていることが必要である。
効率性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	市指定文化財の現況調査に併せ、所有者へ実務に関する手引き等を送付している。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、活動実績が大幅に減少した団体があったため。
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、松山能振興会の活動の一部が実施できなかったため、補助金の戻入を行ったため。
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	指定文化財として制約を受けながら管理している方にとって、文化財を保護するための支援は必要である。
備考			

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	3目 文化財保護費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事業名	史跡旧鍛屋修復事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
69,894,000	69,787,012	0	106,988	99.8%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
34,347,000	1,064,000	29,900,000	60,000	4,416,012	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
19,244,000	19,178,906	50,608,106			
目的・趣旨					
国指定史跡「旧鍛屋」は、修理工事から20年が経過したことから、経年のため屋根などに腐食が生じ、雨漏りをしている箇所もあるほか、耐震性がなく地震で倒壊の恐れもあるため、修復工事（屋根の大規模修繕及び耐震補強工事）を実施する。					
○事業内容 文化庁の指導を受けながら、屋根の大規模修繕及び耐震補強工事に先立ち、仮設屋根設置、調査解体工事、木工事、耐震補強工事を行った。					
○事業実績・説明・事業費					
(1) 平成27年度	39,240円 ・事前調査				
(2) 平成28年度	9,023,080円 ・耐震診断等資料作成 ・耐震診断業務（耐震解析）				
(3) 平成29年度	11,538,173円 ・耐震補強案の作成 ・土壁調査 ・屋根修理等実施設計				
(4) 平成30年度	5,934,006円 ・構造補強実施設計 ・遺構調査実施				
(5) 令和元年度	6,842,000円 ・設備設計 ・実施設計積算 ・遺構調査実施				
(6) 令和2年度	19,178,906円 ・既存樹移転 ・東側板塀解体 ・仮設屋根設置				
(7) 令和3年度	69,787,012円 ・仮設屋根設置 ・調査解体工事 ・木工事 ・耐震補強工事 ※令和2年10月1日から令和7年3月31日（予定）まで修復工事のために休館				
備考	○主な特定財源 文化財保存事業費補助金（国）34,347千円 文化財保存事業費補助金（県）1,064千円 旧鍛屋修復事業支援寄附金（ガバメントクラウドファンディング）60千円 一般補助施設整備等事業債（市債）29,900千円				

史跡旧鍛屋修復事業 事後評価シート			
上位 施策 の 概 要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進	
	個別計画	酒田市文化芸術推進計画（平成30年度～令和9年度）	
	上位施策の最終成果		
	国指定史跡「旧鍛屋」の保存と活用を図り、地域資源を理解し、愛着を持つことにより、地域の歴史や文化を尊ぶ心を醸成するとともに、交流人口の増加や移住の促進につながるなど地域の活性化に資すること。		
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	成果指標		目標値等
	【個】文化資源について誇りを持っている市民の割合（令和4年度）	79%	R3実績値等 53.9%
R5以降の 方向性	活動・手段指標		目標値等
			R3実績値等
			年度内事業の完了
			完了
R5以降の 方向性	項目	評価	説明
	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	国や県の支援と指導を受けながら、請負者、関係部署と連携を密にし事業を実施したことで、令和3年度に予定していた工事が完了に至った。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	旧鍛屋を修繕、耐震補強することにより、国指定史跡である酒田に唯一の残る大廻船問屋の遺構の保存と活用が図られる。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	修復工事を滞りなく進め、今後活用を図っていくことで、貴重な地域資源への理解が深まり誇りを持つことにつながるかと考える。
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	修理工事から20年が経過したことから、屋根などに腐食が生じ、雨漏りをしている箇所もあるほか、耐震性がなく地震で倒壊の恐れもあることから必要である。
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	文化財保護法による管理団体に酒田市がなっているため。
R5以降の 方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	旧鍛屋を修繕、耐震補強することにより、国指定史跡である酒田に唯一残る大廻船問屋の遺構の保存と活用が図られる。
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	-	
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
R5以降の 方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	昨年度より仮設屋根設置の他、調査解体工事、木工事、耐震補強工事の実施となったことによる。
	R5以降の方向性	継続（事務事業を継続）	国や県との緊密な連携により、着実に事業を進めていく。
備考			

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	3目 文化財保護費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事 業 名	未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業 【継続 事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
1,057,000	791,773	0	265,227	74.9%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	791,773	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
105,000	50,000	741,773			
目 的 ・ 趣 旨					
酒田民俗芸能公演会（民俗芸能フェスタ）や黒森歌舞伎酒田公演を開催することなどにより、伝統芸能等の継承者を育成するとともに、保存継承団体の活動を支援する。					
○事業内容 「民俗芸能フェスタ」を実施し、伝承活動を支援する。					
○事業実績・説明 (1) 第52回酒田民俗芸能公演会（民俗芸能フェスタ）の開催 ・開催日時 令和3年11月14日（日）午後1時開演 ・開催場所 酒田市民会館 希望ホール ・入場者数 320名 ・出演団体（急病により上市神代神楽は、出演取りやめ）					
団体名		演舞又はパフォーマンス			
酒田光陵高等学校書道部（酒田市）		書道パフォーマンス			
浜田小学校北前太鼓クラブ（酒田市）		北前太鼓			
長瀬猪子踊り保存会（東根市）		長瀬猪子踊			
お山王はん獅子舞社中（鶴岡市）		山王はんの獅子舞			
落野目神代神楽保存会（酒田市）		落野目神代神楽			
亀ヶ崎八幡神社獅子舞保存会（酒田市）		亀ヶ崎八幡神社獅子舞			
(2) 下記事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止等となった。 ・黒森歌舞伎酒田公演 ・人材育成としての小学5年生向け狂言体験ワークショップ ・民俗芸能保存活動団体への支援としての練習会場の確保					
備考					

未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業 事後評価シート				
総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進			
個別計画	酒田市文化芸術推進計画（平成30年度～令和9年度）			
上位 施策 の 概 要	上位施策の最終成果 伝統芸能等の継承者を育成し、市民に伝統芸能の鑑賞の場を提供することで、民俗芸能への関心と伝統文化への誇りを醸成するとともに、交流人口の増加や移住の促進につながるなど地域の活性化に資すること。			
	成果指標	目標値等	R3実績値等	
	【個】文化資源について誇りを持っている市民の割合（令和4年度）	79%	53.9%	
活動・手段指標		目標値等	R3実績値等	
市指定文化財の件数		317件	307件	
公演等への参加延べ人数		2,000人	320名	
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	項目	評価	説明	
	有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	コロナ禍により、感染者数が増えた時期の事業が一部中止となったため、公演等への参加延べ人数が伸び悩んだ。
		本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	コロナ禍においても伝統芸能の鑑賞機会を提供するため、十分な感染症対策のうえ「民俗芸能フェスタ」を開催し、伝統文化を育む心の醸成に資した。
		上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	コロナ禍により、各民俗芸能団体の演舞の機会が激減していたが、「民俗芸能フェスタ」の開催により演舞の機会と、市民への鑑賞の場を提供できた。
	必要性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	「民俗芸能フェスタ」を通して各民俗芸能団体の活動が復調しているため、伝統芸能等の継承のために支援は必要である。
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	市民への鑑賞機会の提供は、後継者不足等による人出不足が深刻な個別の民俗芸能団体のみで担うことは難しいため。
		上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	民俗芸能団体の後継者不足は、各民俗芸能団体の存続に関わる。鑑賞の機会を市民に提供し関心を高めることは、無形文化財の保存に繋がっている。
効率性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	「民俗芸能フェスタ」の開催にあたっては、市と各民俗芸能団体で役割を分担し事務にあっている。	
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	○	新型コロナウイルス感染症により、当初開催を予定していた鑑賞教室を中止したため。	
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により「民俗芸能フェスタ」を中止したため。	
R5以降の方向性	継続（事務事業を継続）		新型コロナウイルス感染症の感染状況や社会情勢を注視したうえで、感染症収束の折には令和2年度当初計画の規模で事業を継続する。	
備考				

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	2目 文化振興費	所 属	R3 教育委員会社会教育文化課 R2 教育委員会社会教育文化課
事 業 名	土門拳文化賞顕彰事業 【継続 事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
1,353,000	1,330,828	0	22,172	98.4%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	1,330,828	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
3,291,000	3,027,169	△1,696,341			
目 的 ・ 趣 旨					
土門拳氏の功績を記念した顕彰を行い、酒田市と土門拳記念館の魅力を全国にPRすることで、全国から注目を集めるとともに、市民の文化芸術への関心を高める。					
○事業内容 故土門拳氏の偉大な功績を記念し、写真文化、写真芸術の振興に寄与することを目的に、国内の写真愛好家を対象に写真を公募した。全国各地から124人、128点の応募があり、選考の結果、土門拳文化賞（1名）と同奨励賞（3名）を授与した。					
○事業実績・説明 (1) 第27回選考会 日時：令和3年6月11日（金） 会場：酒田勤労者福祉センター (2) 第27回授賞式 日時：令和3年9月5日（日） 会場：土門拳記念館 (3) 第27回酒田市土門拳文化賞 ・受賞者 鈴木 渉氏 受賞作品 「福島祭祀巡礼」 (4) 同奨励賞 ・受賞者 宇佐見 富士夫氏 受賞作品 「原発事故避難 いまだ先行き見えず」 ・同 中田 要氏 受賞作品 「つくり笑いが上手くなりました」 ・同 吉永 友愛氏 受賞作品 「潜伏キリシタン考」 (5) 第27回受賞作品展 ・土門拳記念館 期間：令和3年9月4日～10月3日					
備考					

土門拳文化賞顕彰事業 事後評価シート				
上位 施策 の 概 要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策2 文化芸術の推進		
	個別計画	酒田市文化芸術推進計画（平成30年度～令和9年度）		
	上位施策の最終成果			
	地域の文化芸術を支える人材を育成するとともに、誰もが身近に多様な文化芸術を鑑賞し、及び文化芸術活動を活発に行うことができる文化的環境を整備すること。			
概 要	成 果 指 標		目標値等 R3実績値等	
	【総】文化芸術活動に参加した市民の割合（令和4年度）		45% 26.9%	
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等 R3実績値等	
	受賞作品展入館者数		1,800人 1,642人	
		項目	評価	説明
	有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	新型コロナウイルス感染症の拡大により目標値には届かなかったが、目標値の91%を集客した。
必 要 性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	本事業を通し、写真文化を通じた市民のネットワークが広がりを見せているため、上位施策の最終成果の達成に寄与する事業である。	
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	全国的にもレベルの高い写真公募展であり、プロ写真家への登竜門として広く認知され、歴代受賞者が友の会を組織して積極的に活動している。	
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	毎年100点以上の作品の応募があり、受賞作品展には平常時を上回る来館者数となっているため、社会のニーズを反映している。	
効 率 性	本市が行わなければならない事業なのか。	○	本市は土門拳の生誕の地であり、全作品の寄贈を受けた市の責務として継続すべき事業である。	
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	写真を公募し、受賞作品展を土門拳記念館で実施することで、文化芸術の活動の場を創出している。	
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	公益財団法人さかた文化財団と連携して事業を行っている。	
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-		
R5以降の 方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和3年度より、作品の公募及び選考に関する業務を公益財団法人さかた文化財団に委託したことによる。	
	継続（事務事業を継続）		歴史と重みのある賞であり、酒田の知名度向上に寄与している。	
備考				

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	4目 図書館費	所 属	R3 教育委員会図書館 R2 教育委員会図書館
事業名	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
539,335,000	75,514,623	460,357,000	3,463,377	14.0%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
581,041	0	0	176,542	74,757,040	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
2,290,174,000	2,286,684,541	△2,211,169,918			
目的・趣旨					
酒田駅前再開発において図書館を中核とした公共施設（酒田駅前交流拠点施設ミライニ（旧（仮称）酒田市コミュニケーションポート））を整備し、市民の多様な活動及び学習の場を創出することにより、交流促進及び中心市街地の活性化を図る。					
○事業内容					
(1) グランドオープンに向けた事業推進					
(2) ミライニ先行オープン期間の施設管理及び運営					
(3) 複合施設棟管理組合運営（共用部）への参画					
○事業実績・説明					
「酒田駅前交流拠点施設ミライニ」のうち、酒田駅前観光案内所等先行オープンした一部を活用するため各種事業を展開した。また、中央図書館機能の移転を実施した。					
(1) グランドオープンに向けた事業推進					
・ 令和4年5月5日の中央図書館オープンに向けた中央図書館機能の移転を行った。					
・ 館内ネットワーク及び分館とのネットワーク構築のための機器設置等に係る調整を行った。					
・ 新たにミライニ運営評価審議会を設置した。					
・ 複合施設B棟（駐車場等）整備に係る事業調整を行った。					
・ 各施設の運用について関係者と協議をしながら検討した。					
(2) ミライニ先行オープン期間の施設管理及び運営					
・ 指定管理予定者へ先行オープン業務（駅前観光案内所等の管理・運営）の委託を行った。					
・ 主に高校生対象のまちづくりをテーマとしたワークショップを開催した。					
・ 関係団体と連携しながら高校生による施設活用を行った。					
・ 図書館総合展地域フォーラムin酒田を開催し、ミライニから各地へ情報発信した。					
(3) 複合施設棟管理組合運営（共用部）への参画等					
・ A棟管理組合の運営に参画した。					
・ B棟管理組合、光の湊全体管理協議会設立に係る民間協議を行った。					
※市営立体駐車場、広場等の公共施設土地建物等の購入は、工事期間の延長により次年度に繰り越した。					
備考	○主な特定財源 地方創生推進交付金（国） 581,041円				

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業 事後評価シート				
上位 施策 の 概要	総合計画	第6章 > 政策1 > 施策2 中心市街地における都市機能の再生		
	個別計画	酒田市立地適正化計画（令和元年度～）、第2期酒田市教育振興基本計画（令和2年度～11年度）		
	上位施策の最終成果			
	中心市街地において民間、商業・観光振興施策等と連携し、相乗効果を狙った都市機能の再生・更新を図りエリア内の価値を高めて投資を呼び込み、魅力と賑わいを創出するまちづくりを目指す。			
概要	成果指標		目標値等	R3実績値等
	【総】中心市街地の土地価格の維持（令和4年度）		49,500円/㎡	48,200円/㎡
	【個】居住誘導区域内の人口密度（令和12年度）		36.5人/ha	33.6人/ha
担当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等
	駅前再開発事業の事業進捗率		100%	72.5%
	項目	評価	説明	
	有効性	○	複合施設B棟（駐車場等）の完成が遅れたことによるもの。 本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	
必要性	△	図書館を中核とした公共施設の整備により、駅前エリアの価値を高めて投資を呼び込み、魅力と賑わいを創出するまちづくりに結びつくものである。		
方向性	○	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。		
方向性	△	駐車場棟等が未完成であり図書館等主要機能も移転しておらず確かな成果は測れないが、高校生活動等の事業実施により本格オープンへの期待感が高まっている。		
方向性	○	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		
方向性	△	本市が行わなければならない事業なのか。		
方向性	○	令和4年度より指定管理者による運営を開始している。		
方向性	○	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。		
方向性	△	図書館や観光案内所等の機能整備により、施設としての魅力向上が図られ、集客効果や民間、商業、観光連携といった相乗効果が得られる。		
方向性	△	特に、指定管理者や複合施設A棟の民間事業者の持つ運営ノウハウやコネクションを生かした管理運営や企画等への取組を行っているか。		
方向性	○	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		
方向性	○	令和3年度予定の複合施設B棟（駐車場等）床購入が令和4年度にずれ込み繰越明許となった。		
方向性	○	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。		
方向性	○	令和2年度は複合施設A棟部分の床購入があったことに加え、令和3年度予定の駐車場床購入が令和4年度にずれ込んだため。		
方向性	R5以降	その他（右欄に記載）	管理運営については別事業とし、利用推進に向けて引き続き関係者との協議・調整を重ね、指定管理者による管理運営が順調にいくよう整えていく。	
備考				

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	4目 図書館費	所 属	R3 教育委員会図書館 R2 教育委員会図書館
事業名	子ども読書活動推進事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
1,393,000	1,132,611	0	260,389	81.3%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	1,132,611	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)		
1,630,000	1,321,643	△189,032			
目 的 ・ 趣 旨					
子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組むとともに、家庭での読書活動を高める。					
事業概要	○事業内容				
	<ul style="list-style-type: none"> (1) ブックスタートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3か月児健診会場でのブックスタート ・ ブックスタート事業のフォローアップとしての赤ちゃん読み聞かせ教室 (2) 土曜おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと保護者を対象とした図書館ボランティアによる定期的なお話会の開催 (3) 読み聞かせ出張講話 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や地域に、読み聞かせ・読書推進関係の講師を派遣 (4) 読み聞かせボランティア講座(ボランティア養成) (5) 絵本作家講演会(コロナ禍により中止) (6) 親子手作り絵本講座 (7) 学校図書館等連携研修会 (8) 家読(うちどく)の推進 (9) 家読だより、中・高校生向け図書リスト配布等による啓発活動 (10) 読書手帳の活用 (11) 学校巡回文庫の実施 				
事業概要	○事業実績・説明				
	<ul style="list-style-type: none"> (1) ブックスタートを年24回実施し、延べ491人の乳児に絵本をプレゼントした。 (2) 赤ちゃんの読み聞かせ教室を年10回実施し、延べ73人の親子が参加した。 (3) 土曜おはなし会をボランティア団体が年18回、有志が年5回、高校生が年1回実施し、延べ339人の親子が参加した。 (4) 読み聞かせ出張講話を年2回実施し、延べ30人が参加した。 (5) 読み聞かせボランティア講座を年4回実施し、延べ72人が参加した。 (6) 夏休み企画の親子手作り絵本講座を年3回実施し、延べ101人の親子が参加した。 (7) 学校図書館等連携研修会を開催し、小中学校の図書専門員へ技能講習等を行った。 (8) 家読講座を年2回開催し、延べ22人が参加した。 (9) 児童図書室、中央図書館で企画展示を実施した。手作りポップによる利用者おすめ本紹介、家読リストや絵本だより・本だより作成・配布、県立図書館発行の中・高校生向け図書リスト配布等、幅広い年代へ啓発活動を行った。 (10) 読書手帳を乳児から中学生まで約4,000冊を配布し、活用を呼びかけた。 (11) 児童、生徒の読書への動機づけ、本への興味・関心の醸成を図るため「学校巡回文庫」を学校と連携し、小学校7校、中学校7校で実施した。 (12) 閉架書籍を最大100冊、長期で貸し出す「貸出文庫」を延べ2校5園で実施した。 				
備考					

子ども読書活動推進事業 事後評価シート					
上位施策の概要	総合計画	第1章 > 政策3 > 施策2 確かな学力の向上			
	個別計画	第3次酒田市子ども読書活動推進計画(令和3~7年度)			
	上位施策の最終成果				
	子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組むことにより、一人ひとりの子どもが自主的に読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるようになり、生涯にわたる読書活動の継続につながる。				
概要	成果指標		目標値等	R3実績値等	
	【個】乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合(令和7年度)		96.0%	-	
	【個】1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合(小学生)(令和7年度)		0.0%	-	
概要	【個】1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合(中学生)(令和7年度)		0.0%	-	
	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等	
	市立図書館の児童図書の間貸出冊数(15歳以下の子ども1人当たり)第2次計画目標値12.7冊/年		向上させる	5.73冊	
担当課による事務事業の事後評価・方向性	市立図書館の間貸出冊数(16~20歳1人当たり)		3.00冊	1.00冊	
	項目	評価	説明		
	有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のための一部サービス制限の継続と、移転のための中央図書館長期休館により、貸出数全体が大幅に減少し目標値を下回った。	
必要性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	令和2年度の小中学校へのアンケート結果より、本を読む事が好きな子どもや本に関する話題がある家庭が増えており読書習慣形成の向上傾向が見られる。		
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	コロナ禍による利用制限前は、子ども(15歳以下)一人当たりの年間貸出冊数12.7冊の評価指標を平成30年度に前倒して達成、上回っており成果は上がっている。		
方向性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	これまでの取り組みの成果と課題を検証し、一定の成果が認められた内容は継承しつつ新たにに取り組むべき施策を加え策定された計画に基づき事業を実施している。		
	本市が行わなければならない事業なのか。	×	令和4年度より指定管理者による運営を開始している。		
方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	本事業が実施されない場合、読書活動の機会が減少し自主的・継続的な読書習慣に影響が及び、豊かな人生を送る力が失われることに繋がるため必要である。		
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	令和4年度より指定管理者による運営を開始している。		
方向性	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-			
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-			
備考	R5以降の方向性	その他(右欄に記載)	令和4年度からの民営化(指定管理)により、個別計画に沿っての効率的な事業実施を支援する。		
備考					

款 項 目	10款 教育費	4 項 生涯学習費	4 目 図書館費	所 属	R3 教育委員会図書館 R2 教育委員会図書館
事業名	光丘文庫デジタルアーカイブ事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
1,465,000	1,464,628	0	372	99.9%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	0	0	0	1,464,628	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)		
1,542,000	1,541,320	△76,692			
目的・趣旨					
光丘文庫が所蔵する資料等を最大限に活用し、酒田の歴史を学ぶためのコンテンツを追加することによって市民の郷土史への関心を高めるとともに、光丘文庫所蔵資料の価値をわかりやすく全国に発信するもの。					
○事業内容					
(1) 平成30年度に構築したデジタルアーカイブに以下のコンテンツを追加、拡充した。					
・ 保定記・続保定記・印旛沼日記					
・ 続保定記1巻(印旛沼開削)					
・ 酒田大震災写真(明治28年)					
・ 大日本職業別明細図 酒田港(昭和6年)					
・ 酒田市全図(大正4年)					
・ 酒田市案内図(昭和9年)					
・ 酒田市街図(大正4年)					
・ 酒田市都市計画図(昭和12年)					
・ 年表項目の追加・修正(50項目)					
(2) 新聞の電子化を実施した。					
○事業実績・説明					
(1) 県指定文化財「保定記」、「続保定記」(印旛沼古堀場御普請之部)					
「保定記」は幕府により印旛沼普請に動員される3年前の天保11年(1840年)の庄内藩、川越藩、長岡藩の三方領知替えや大山騒動の記録。					
「続保定記」は天保14年(1843年)に庄内藩を含む5つの藩が幕府の命令により千葉県の印旛沼開削工事に動員された際の詳しい記録であり、全ページを原文画像と翻刻文(活字)を重ね表示したもの。					
(2) 古地図画像等の追加					
最もアクセス数の多いコンテンツである古地図を中心に画像追加を行った。					
酒田大震災写真(明治28年)、酒田市街図(大正4年)、酒田市全図(大正4年)、大日本職業別明細図(昭和6年)、酒田市案内図(昭和9年)、酒田都市計画図(昭和12年)を追加した。					
(3) 「酒田市史年表」の訂正(50か所)					
(4) 地元紙「荘内タイムス」(昭和35年~37年)の電子化					
備考					

光丘文庫デジタルアーカイブ事業 事後評価シート					
上位 施策 の 概要	総合計画	第1章 > 政策4 > 施策3 知(地)の拠点としての図書館			
	個別計画	第2期酒田市教育振興基本計画(令和2年度~11年度)			
	上位施策の最終成果				
	郷土の歴史への関心を高め、貴重な史資料を確実に未来の市民に伝えること。				
概要	成果指標		目標値等	R3実績値等	
	【総】人口1人当たりの入館回数(平成29年度 3.17回)		増加させる	2.20回	
担当 課 による 事務 事業 の 事後 評価 ・ 方向 性	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等	
	光丘文庫デジタルアーカイブ月平均ページビュー数		30,000ページ	39,709ページ	
有効性 必要性 効率性	項目	評価	説明		
	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	市広報やホームページ、マスコミへのプレスリリースなどを利用した情報発信による周知やコンテンツ拡充により、新規閲覧者やリピーターの取り込みができたため。		
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	月平均ページビュー数が増加しており、郷土史への関心を高めるために有効である。		
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	貴重な史資料を確実に伝えることはできているが、数多くある史資料の中、予算内での限られた史資料のみのデジタル化となっている。		
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	郷土史資料に関心のある市民や全国からの研究者が、施設の開館日を気にすることなく、また、コロナ禍でも来館せずに資料を閲覧できる機会を提供している。		
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	本市の貴重な文化遺産をあらゆる世代の方々を知っていただき、さらに後世に引き継ぐためのアーカイブの維持管理は市の重要な役割である。		
方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	新規閲覧者やリピーターを取り込んで行くためには、定期的なコンテンツの拡充が必要である。		
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	費用の増加につながる掲載画像の撮影を可能な限り委託せず、既存の複合機でデジタル化して提供することにより、経費の抑制を図っている。		
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-			
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-			
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	新たに、未来を担う小・中学生の郷土史への関心を高めるため、ふるさと教育を視野に入れた若年者向けコンテンツを整備し、周知を図っていく。		
備考					

款 項 目	10款 教育費	4項 生涯学習費	4目 図書館費	所 R3 教育委員会図書館 R2 教育委員会図書館
事業名	子ども読書活動推進事業 【継続事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
1,393,000	1,132,611	0	260,389	81.3%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	0	0	1,132,611
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
1,630,000	1,321,643	△189,032		
目的・趣旨				
子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組むとともに、家庭での読書活動を高める。				
事業概要	○事業内容			
	<ul style="list-style-type: none"> (1) ブックスタートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診会場でのブックスタート ・ブックスタート事業のフォローアップとしての赤ちゃん読み聞かせ教室 (2) 土曜おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者を対象とした図書館ボランティアによる定期的なお話会の開催 (3) 読み聞かせ出張講話 <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域に、読み聞かせ・読書推進関係の講師を派遣 (4) 読み聞かせボランティア講座(ボランティア養成) (5) 絵本作家講演会(コロナ禍により中止) (6) 親子手作り絵本講座 (7) 学校図書館等連携研修会 (8) 家読(うちどく)の推進 (9) 家読だより、中・高校生向け図書リスト配布等による啓発活動 (10) 読書手帳の活用 (11) 学校巡回文庫の実施 			
事業概要	○事業実績・説明			
	<ul style="list-style-type: none"> (1) ブックスタートを年24回実施し、延べ491人の乳児に絵本をプレゼントした。 (2) 赤ちゃんの読み聞かせ教室を年10回実施し、延べ73人の親子が参加した。 (3) 土曜おはなし会をボランティア団体が年18回、有志が年5回、高校生が年1回実施し、延べ339人の親子が参加した。 (4) 読み聞かせ出張講話を年2回実施し、延べ30人が参加した。 (5) 読み聞かせボランティア講座を年4回実施し、延べ72人が参加した。 (6) 夏休み企画の親子手作り絵本講座を年3回実施し、延べ101人の親子が参加した。 (7) 学校図書館等連携研修会を開催し、小中学校の図書専門員へ技能講習等を行った。 (8) 家読講座を年2回開催し、延べ22人が参加した。 (9) 児童図書室、中央図書館で企画展示を実施した。手作りポップによる利用者おすすめ本紹介、家読リストや絵本だより・本だより作成・配布、県立図書館発行の中・高校生向け図書リスト配布等、幅広い年代へ啓発活動を行った。 (10) 読書手帳を乳児から中学生まで約4,000冊を配布し、活用を呼びかけた。 (11) 児童、生徒の読書への動機づけ、本への興味・関心の醸成を図るため「学校巡回文庫」を学校と連携し、小学校7校、中学校1校で実施した。 (12) 閉架書籍を最大100冊、長期で貸し出す「貸出文庫」を延べ2校5園で実施した。 			
備考				

子ども読書活動推進事業 事後評価シート				
上位	総合計画	第1章 > 政策3 > 施策2 確かな学力の向上		
	個別計画	第3次酒田市子ども読書活動推進計画(令和3~7年度)		
施策	上位施策の最終成果			
	子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組むことにより、一人ひとりの子どもが自主的に読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるようになり、生涯にわたる読書活動の継続につながる。			
概要	成果指標		目標値等	R3実績値等
	【個】乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合(令和7年度)		96.0%	-
	【個】1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合(小学生)(令和7年度)		0.0%	-
	【個】1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合(中学生)(令和7年度)		0.0%	-
活動	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等
	市立図書館の児童図書の間貸出冊数(15歳以下の子ども1人当たり)第2次計画目標値12.7冊/年		向上させる	5.73冊
	市立図書館の間貸出冊数(16~20歳1人当たり)		3.00冊	1.00冊
担当	項目	評価	説明	
	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。		新型コロナウイルス感染拡大防止のための一部サービス制限の継続と、移転のための中央図書館長期休館により、貸出数全体が大幅に減少し目標値を下回った。	
有効性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	令和2年度の小中学校へのアンケート結果より、本を読む事が好きな子どもや本に関する話題がある家庭が増えており読書習慣形成の向上傾向が見られる。	
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	コロナ禍による利用制限前は、子ども(15歳以下)一人当たりの年間貸出冊数12.7冊の評価指標を平成30年度に前倒して達成、上回っており成果は上がっている。	
必要性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	これまでの取り組みの成果と課題を検証し、一定の成果が認められた内容は継承しつつ新たにに取り組むべき施策を加え策定された計画に基づき事業を実施している。	
	本市が行わなければならない事業なのか。	×	令和4年度より指定管理者による運営を開始している。	
方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	本事業が実施されない場合、読書活動の機会が減少し自主的・継続的な読書習慣に影響が及び、豊かな人生を送る力が失われることに繋がるため必要である。	
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	令和4年度より指定管理者による運営を開始している。	
効率性	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-		
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-		
方向性	R5以降の方向性	その他(右欄に記載)	令和4年度からの民営化(指定管理)により、個別計画に沿っての効率的な事業実施を支援する。	
備考				

款 項 目	2款 総務費	1項 総務管理費	2目 広報広聴費	所 属	R3 総務部市長公室 R2 総務部市長公室
事業名	広報広聴活動推進事業 【継続事業】				
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①	
79,401,000	77,950,295	0	1,450,705	98.2%	
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源	
0	2,474,472	0	90,000	75,385,823	
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)		
80,902,000	74,881,362	3,068,933			
目的・趣旨					
広報紙、市ホームページ、コミュニティFM、SNS、メールマガジン、記者会見等を活用し、行政情報を的確にきめ細かく市民などに提供する。また、提言メールや市庁舎等に設置しているふれあいBOXによる広聴を実施する。					
〇事業内容及び実績・説明 (1) 広報事業 ① 広報紙の発行…月2回、42,300部を発行 ・新型コロナワクチン接種のきめ細やかな情報発信と時節を捉えた特集づくりに努めた。 ・広報に興味を持つきっかけづくりと、紙面へ読者の意見等を反映させるため、年1回、広報紙に意見投稿はがきと本市の風景写真を使った絵はがきを折り込んだ。 ② 市ホームページによる情報発信 ・アクセス数 R1/5,619,609回、R2/7,518,352回、R3/18,783,656回 ③ コミュニティFM放送による情報発信 ・インフォメーションさかた(月曜日～金曜日)、職員参加型放送(毎週金曜日)で行政情報を発信した。 ④ その他 ・メールマガジン ふるさとだよりの配信登録者数 H30年度末1,460人、R1年度末1,558人、R2年度末1,597人、R3年度末1,606人 ・SNSによる情報発信 フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ライン ・視覚障がい者用音声広報の実施(対象者22人) ・インスタグラムによる酒田の魅力発信「#酒田みっけ」の募集(令和3年度投稿件数6,296件)					
(2) 市政のPR及びその他の広報活動等 ① 定例記者会見(原則毎月第一月曜日)、定例プレスリリース(毎週月曜日) ② WEBアプリ等による市広報紙の発信(マチイロ、山形イーブックス) ③ 出前講座の実施 ・申し込みを受けた各種団体等に市職員を派遣し、市政の状況や制度等を説明した(メニュー数70)。 ・実績件数及び参加人数 R1 163件(3,935人)、R2 116件(2,651人)、R3 104件(2,909人) ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため1か月半ほど休止期間あり。 ④ 市庁舎1階情報掲示板における市関連の情報発信					
備考	〇主な特定財源 県広報配布委託金(県)		2,474,472円		
	市ホームページバナー広告料		90,000円		

広報広聴活動推進事業 事後評価シート					
上位	総合計画	第1章 > 政策1 > 施策3 広報の充実			
	個別計画				
施策	上位施策の最終成果				
	市政に対する市民の関心を喚起するため、市民への積極的な情報発信を行うとともに市民との対話を行うことにより、まちづくりを自分事と考える市民を増やす。				
	成果指標		目標値等	R3実績値等	
	【総】広報紙への意見数(令和4年度)		72件	32件	
概要	【総】SNSのフォロワー数(令和4年度)		10,000件	47,140件	
	【総】市HPに対する「わかりやすい」「たどりつきやすい」という感想の割合(令和4年度)		65%	49%	
	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等	
担当課	広報紙への意見投稿はがきとじ込み回数		2回	1回	
	SNSの媒体数		4件	4件	
必要性の事後評価	有効性	項目	評価	説明	
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	とじ込みはがきは、予算の制約があり業務委託の仕様を年1回として実施した。SNS媒体は令和2年12月にラインを導入し4つとなり目標を達成した。	
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	広報紙の全戸配布やSNS媒体を活用したわかりやすく正確な情報発信が市民の市政への関心を喚起し、市と市民との信頼関係を生むものと考えられる。		
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	広報紙への意見数や市ホームページに対する感想の目標値を下回っている一方で、SNSのフォロワー数は大幅に伸びている。		
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	広報・広聴は、市と市民をつなぐ重要な情報伝達手段であり、必要な情報をわかりやすく伝え、市政への関心を高める効果が期待されている。		
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	市民に対し市政や行政情報を迅速かつ正確に情報発信するために本市が行わなければならないものである。		
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	広報・広聴は、市民との情報の共有と理解、郷土愛の醸成につながる必要かつ適切な事業である。		
	効率性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	民間事業者との連携による効率的な広報紙製作を進めることにより、SNSでの発信業務の強化を図り、広報業務の充実を進めることができた。	
執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		-			
支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。		-			
備考	R5以降の方向性	見直し(目的、指標、事務内容の見直し)	後期総合計画の策定に合わせ、成果指標を「市政に関心があると感じる市民の割合」に変更する。		

款 項 目	8 款 土木費	5 項 都市計画費	1 目 都市計画総務費	所 属 R3 企画部都市デザイン課 R2 企画部都市デザイン課
事 業 名	さかたらしい景観づくり事業 【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
2,946,000	2,259,467	0	686,533	76.7%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	1,443,000	0	341,870	474,597
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)	
3,428,000	2,639,833	△380,366		
目 的 ・ 趣 旨				
酒田市景観計画及び酒田市景観条例に基づき、市民、事業者、行政の協働による魅力的な景観づくりを推進することにより、良好な景観の保全・形成、景観に対する市民意識の醸成を図る。				
○事業内容				
(1) 良好な景観形成への推進・誘導				
(2) 「景観形成重点地域」の景観づくり推進 (山居倉庫周辺地区、松山歴史公園周辺地区、日和山周辺地区)				
(3) 屋外広告物事務の円滑な運用				
○事業実績・説明				
(1) 景観条例に基づく各種受理件数				
・ 景観条例(第5条)に基づく届出受理(民間) 計22件 (内訳)				
重点地域内の行為における届出 4件 建築物 4件				
重点地域外の行為における届出 18件 建築物 7件 / 工作物 3件 / 開発 1件 / 土石採取 4件 物件の堆積 2件 / 土地の形質の変更 1件				
・ 景観条例(第9条)に基づく通知受理(国等) 3件				
(2) 景観助成金交付実績				
・ 0件(実績なし)				
(3) 屋外広告物の許可申請受理 128件				
備 考	○主な特定財源 市町村総合交付金(屋外広告物事務)(県) 1,443,000円 屋外広告物許可申請手数料 341,870円			

さかたらしい景観づくり事業 事後評価シート			
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第5章 > 政策2 > 施策3 景観形成の促進	
	個別計画	酒田市景観計画(平成20年度~)	
	上位施策の最終成果		
	豊かな自然や歴史、文化を生かした魅力的な景観づくりを進めること。		
事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	成 果 指 標		目標値等 R3実績値等
	【総】景観形成重点地域の景観に良い雰囲気と感じている市民の割合	70%	70.60%
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等 R3実績値等
	景観形成重点地域内での景観助成金の活用		1件 0件
	項目	評価	説明
有 効 性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	景観助成金活用の相談はあったものの、工事等の内容が助成要件に合致しない事例が多く、実績に結びつかなかったものである。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	景観形成重点地域は本市の景観を特徴づける重要な地域であり、当該エリアでの景観形成の推進は魅力的な景観づくりにつながるものであることから適切である。
必 要 性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	助成制度は、長期的には景観形成重点地域の特徴を生かした景観形成に貢献し、成果を上げている。(本年度は建て替え時期等がマッチせず活用に至らなかった。)
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本市の豊かな自然、歴史的なまちなみや建造物などの文化的景観への市民の意識は高まっており、社会のニーズを反映している。
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	国や県では景観形成に対する支援措置はない。民間の経済活動に一定の制限を加えている面があり、また、採算性の高い事業ではないため、民営化には馴染まない。
効 率 性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	景観形成の取組みはすぐに効果が出るものではなく、年月をかけて市民、事業者、行政が一体となり作り上げていくものであることから、必要かつ適切な事業である。
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	景観や屋外広告物に関する制度の周知(市広報・HPへの掲載)をはかり、市民等の景観に対する意識の向上を図ることで、事業の効率化を図っている。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	△	景観助成金の交付実績が無かったことによるものである。
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-	
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	上位目標の達成に向けて有効な事業であるため、現状のまま維持する。
備 考			

款 項 目	8 款 土木費	4 項 港湾費	1 目 港湾振興費	所 属 R3 地域創生部商工港湾課 R2 地域創生部商工港湾課																						
事業名	客船誘致事業 【継続事業】																									
予算現額①	522,000	支出済額②	521,320	翌年度繰越額③	0	不用額①-②-③	680	執行率②/①	99.9%																	
支出済額②の財源内訳																										
国庫支出金	0	県支出金	0	市債	0	その他	0	一般財源	521,320																	
前年度予算現額	528,000	前年度支出済額④	526,480	差額②-④	△5,160	(単位:円)																				
目的・趣旨																										
酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客(乗船客)を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。																										
事業概要	○事業内容 (1) クルーズ船社へのプロモーション活動、視察対応、セミナーの開催 (2) クルーズ船の歓迎・出港イベント及び岸壁の一般開放等の実施																									
	○事業実績・説明 (1) クルーズ船社へのプロモーション活動、視察対応、セミナーの開催 ①クルーズ船社の視察対応 ・ゲンティンクルーズ (日時) 令和3年11月10日~11日 (招請者) ゲンティンクルーズ (視察先) 古淡ふ頭、土門拳記念館、山居倉庫、相馬楼等 ・ポナン (日時) 令和3年11月24日~25日 (招請者) ポナン日本・韓国支社 (視察先) 酒田港本港地区、土門拳記念館、山居倉庫、相馬楼等 ②セミナーの開催 コロナ後のクルーズ船寄港に向けて、クルーズ船業界の関係者から地元関係者に向けたセミナーの開催を企画していたが、令和4年度に延期となった。 (2) クルーズ船の酒田港寄港時における歓迎・出港イベント等 (令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべて中止)																									
備考	※参考 過去5年間のクルーズ船寄港予定及び実績																									
	<table border="1"> <caption>過去5年間のクルーズ船寄港予定及び実績</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>外国船社</th> <th>日本船社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017年</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2018年</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2019年</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2020年</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2021年</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2020年及び2021年については、内示時点での寄港予定回数であり、寄港実績は0回)</p>									年	外国船社	日本船社	2017年	5	0	2018年	2	0	2019年	3	0	2020年	7	1	2021年	2
年	外国船社	日本船社																								
2017年	5	0																								
2018年	2	0																								
2019年	3	0																								
2020年	7	1																								
2021年	2	0																								

客船誘致事業 事後評価シート			
上位施策の概要	総合計画	第3章 > 政策3 > 施策1 クルーズ船等の誘致による賑わい創出	
	個別計画	酒田港港湾計画(山形県、令和2年~令和15年頃)、第4次山形県総合発展計画実施計画(令和2年度~令和6年度)	
担当課による事後評価・方向性	活動・手段指標		
	クルーズ船誘致活動回数(オンラインでの面談等含む)	目標値等	R3実績値等
	10回	2回	
有効性	項目	評価	説明
	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う往来制限により、クルーズ船誘致活動が制限されたことによる。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	継続的なクルーズ船寄港のためには、船社との関係性構築が不可欠であり、船社訪問等による誘致活動は、関係性構築のための有効な方法である。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	×	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う往来制限により、都内に集中する船社への訪問ができなかった。
必要性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	クルーズ船の寄港は、乗客・船員による寄港地での消費により、地域経済を活性化させる効果がある。
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	クルーズ船の誘致及び受入れは、多岐にわたる利害関係者の調整が必要であり、県と市が一体となって取り組む必要のある事業であるため、民営化になじまない。
効率性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	船社訪問は、船社との関係性を構築・維持する重要な手段であり、新規・継続寄港を実現することに寄与する。
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	クルーズ船寄港の都度、課題等を洗い出し、次回以降のポートセールスや受入対応に生かしている。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
R5以降の方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-	
	継続(事務事業を継続)	令和3年度はクルーズ船の寄港がなかったものの、寄港が再開すれば受入対応が必要となってくるため、事業を継続する必要がある。	
備考			

款 項 目	2 款 総務費	1 項 総務管理費	12 目 交流推進費	所 属 R3 地域創生部交流観光課 R2 地域創生部交流観光課
事 業 名	国際交流推進事業 【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
1,295,000	1,192,100	0	102,900	92.1%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	0	0	1,192,100
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
1,211,000	718,308	473,792		
目 的 ・ 趣 旨				
姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図る。				
事 務 概 要	<p>○事業内容 コロナ禍で訪問等の対面型の交流活動はできなかったが、オンラインを活用した活動を実施した。</p> <p>○事業実績・説明 (1) 姉妹都市ジェレズノゴルスク・イリムスキー市との交流 ・2月8日にナイダ副市長と令和4年度姉妹都市に関する展示について、オンラインによる意見交換を行った。 (2) 友好都市唐山市との交流 ・11月5日に自治体国際化協会主催の「第22回日中韓3か国地方政府交流会議」(オンライン)に参加し、唐山市人民政府 武副秘書長と今後の両市の交流について意見交換を行った。 ・1月14日に北京冬季オリンピック友好都市協力発展フォーラム(オンライン)に、武副秘書長と共に参加した。 (3) 姉妹都市デラウェア市との交流 ・酒田市国際交流協会主催の動画コンテストにおいて、リグルデラウェア市長からビデオメッセージをいただき、「デラウェア賞」を発表いただいた。 ・東北公益文科大学国際教養コースの学生と、同大学の協定大学であるウェズリアン大学の学生がオンライン上で交流を重ねた。 (4) サントペテルブルク市との交流 ・6月24日に日本インバウンド観光セミナーにオンラインで参加し、本市のPRを行った。 ・9月1日～14日にサント市対外関係委員会の協力により、サントペテルブルク第83番学校で「酒田の豪商・本間家写真展」を開催した。 ・酒田南高校が、サントペテルブルク第583番学校とビデオレターの交換を行った。 ・酒田光陵高校が、サントペテルブルク第83番学校とビデオレターの交換のほか、オンラインでの交流を行った。 (5) 酒田市国際交流協会の活動 ①「酒田の紹介 in English 動画コンテスト」の実施 11月16日に市内4校の高校生および大学生が英語で制作した、本市の紹介動画11作品をプレゼンのうえ上映し、その中から優秀作品を表彰した。54人参加 ②インターナショナル・旅・リレー(オンライン)の実施 プレゼンターのおすすめスポットや料理などを紹介した。延べ97人参加 ③北庄内地域通訳案内士スキルアップ研修(オンライン)を実施 延べ36人参加</p>			
備考				

国際交流推進事業 事後評価シート			
総合計画	第3章 > 政策2 > 施策2 交流およびシティプロモーションの推進		
個別計画			
上位	上位施策の最終成果		
施策	都市間交流を推進し、経済交流につなげるとともに、地域で活躍する国際人材の育成を図ること。		
概要	成果指標	目標値等	R3実績値等
【総】酒田交流おもてなし市民会議会員数(令和4年度)		1,000人・団体	546人・団体
【追】市と関連団体が連携して取り組んだ国際交流活動件数		5件	2件
【追】経済交流につながった件数(令和元年度～令和4年度累計)		2件	0件 (累計1件)
	活動・手段指標	目標値等	R3実績値等
	酒田市国際交流協会会員数	200人・団体	169人・団体
担当課	項目	評価	説明
有効性による事務事業の事後評価・方向性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	コロナ禍によりオンラインでの事業を中心に展開し、市内外から幅広い参加を得たが、活動の機会が減少し協会のPRがあまりできなかったことによる。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	交流事業を通じて、参加者の国際理解と人材育成に寄与している。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	人材育成の面ではオンラインを利用して工夫したが、コロナ禍により都市間交流が制限されたため、経済交流につながった実績はなかった。
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	ウィズコロナにおけるグローバル化の潮流やインバウンドの再開により、交流を通じた相互理解が重要になってくるが、その活動に寄与するものである。
	本市が行わなければならない事業なのか。	△	活動の中核となる民間団体が未だ無いため、国際交流協会において会員の自主活動を支援する制度を設け、団体の育成に努めている。
必要性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	交流事業においては、特に高校生の参加により国際理解や人材育成に寄与するほか、経済交流の促進にも寄与する。
方向性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	△	国際交流協会の企画会議、講座の受付、アンケートをオンラインで行うことにより事務軽減を図り、関係団体と連携しながら通訳ガイドの育成などに取り組んでいる。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和2年度はコロナ禍により国際交流協会の活動が制限され、負担金の支出が1/2になったもの。
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	国際交流事業は継続して実施し、信頼関係を築いていくことが重要なので、コロナ禍においてもオンラインを活用し、新しい生活様式に沿った活動を行っていく。
備考			

款 項 目	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費	所 属 R3 地域創生部交流観光課 R2 地域創生部交流観光課
事 業 名	ホストタウン・日本遺産関連負担金（交流観光推進事業）【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
7,765,000	7,365,404	0	399,596	94.9%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	3,371,000	0	0	3,994,404
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)	
18,166,000	18,166,000	△10,800,596		
目 的 ・ 趣 旨				
ホストタウン・北前船日本遺産を活用し、本市の魅力を発信することにより、交流人口・関係人口の増加を図るとともに、ホストタウンは、人材の育成と共生社会の推進、日本遺産は、観光客の増加につなげる。				
○事業内容				
<ul style="list-style-type: none"> (1) 東京オリンピック・パラリンピック酒田市ホストタウン推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加するトライアスロンニュージーランド代表チーム（以下「TRINZ」）の事前キャンプ受入は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となったが、オンラインで選手との交流を行った。 ・障がい者スポーツの周知や映画観賞会等による共生社会の推進 (2) 日本遺産「北前船寄港地」を活用した事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北前船寄港地・船主集落のストーリーの発信、観光誘客への活用 ・関係市町で構成する北前船日本遺産推進協議会（全国）との連携活動 ・酒田市日本遺産推進協議会による市民への周知と観光活用 				
○事業実績・説明				
(1) ホストタウン				
①TRINZと小中学校のオンラインによる交流の実施 全6回 471人参加				
②市内小中学校の児童・生徒による寄せ書きフラッグ、手づくりの扇子及びニュージーランド傘福の贈呈				
③TRINZ選手・スタッフに向けたオンラインツアーや、SNSを活用した観光プロモーションの実施				
④厚木市と連携した、ニュージーランド車いすラグビー代表チームと酒田市・厚木市の高校生とのオンライン交流を実施				
⑤共生社会への理解を深めるため、本市出身の監督による共生社会をテーマにした映画「梅切らぬバカ」鑑賞会を開催 900人参加				
(2) 日本遺産				
①全国48自治体と連携した事業				
・旅行商品の造成（びゅうトラベル、日本旅行で酒田を含む9コース）				
※コロナにより募集中止				
・構成文化財データベースの構築				
・「ガイドブック北前船48」、「動く総合商社北前船」の作成・配布				
・学芸員セミナー（オンライン）の開催				
・「第30回北前船寄港地フォーラムin秋田」の開催				
②酒田市日本遺産推進協議会の事業				
・北前船日本遺産カードを作成し、構成文化財への回遊を促すカードラリーを実施				
・乗合バスへの全面広告				
備考	○主な特定財源 ホストタウン等新型コロナウイルス感染症対策交付金（県） 3,371,000円			

ホストタウン・日本遺産関連負担金（交流観光推進事業） 事後評価シート				
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第3章 > 政策2 > 施策1 観光の振興		
	個別計画	酒田市中長期観光戦略（平成28～令和7年度）		
	上位施策の最終成果			
	アフターコロナを見据え、有名観光地とは異なるアプローチで「ウリ」や「ターゲット」を明確にし、誘客促進につなげ、地域に経済効果をもたらすこと。			
概 要	成 果 指 標		目標値等 R3実績値等	
	【総】観光施設入込数（令和4年度）		350万人 192万人	
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等 R3実績値等	
	ホストタウン・共生社会ホストタウンの関連事業への市民参加数（延べ）		1,500人 1,371人	
	北前船日本遺産に関する研修会・PR活動・イベントの実施回数		5回 1回	
	有 効 性	項目	評価	説明
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。		コロナ禍によりTRINZの受け入れや日本遺産関連イベントが実施できなかったことによる。
		本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	△	日本遺産を活用した旅行ツアーの造成などは観光誘客に寄与しているが、3年度はコロナ禍で中止となった。
	必 要 性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	オンラインを活用した事業を展開するなどアフターコロナに向けた準備を進めているほか、新たに取り組んだ日本遺産カードは好評で、誘客に寄与した。
		事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	ホストタウンを契機とした共生社会の推進、日本遺産を活用した観光誘客が市民から期待されている。
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	加盟自治体が事業実施主体である。
	効 率 性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	日本遺産は、市の観光のウリであり、観光誘客・経済効果向上に寄与する。
事業の効率化に向けた取組は行われているか。		○	関係課や関係団体と連携し、それぞれの役割分担を明確にして事業を実施した。	
執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		-		
R5以降の方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	令和2年度は観光庁の補助事業（16,000千円）を活用し、観光誘客のための観光資源の磨き上げ等の事業を行ったため。	
	その他（右欄に記載）		ホストタウン事業については、令和3年度で終了した。日本遺産は再認定を見据えながら事業の充実を図っていく。	
備考				

款 項 目	2 款 総務費	1 項 総務管理費	10 目 地域活動推進費	所 属 R3 市民部まちづくり推進課 R2 市民部まちづくり推進課
事 業 名	コミュニティ振興事業 【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
163,076,000	162,924,582	0	151,418	99.9%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	51,100,000	0	111,824,582
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)	
147,700,000	146,001,150	16,923,432		
目 的 ・ 趣 旨				
地域が育んできた力を活かし、地域に合った取り組みを地域コミュニティ自らが自由に選択し実行できる交付金制度（ひとづくり・まちづくり総合交付金）により、各地域の住民主体の活動を支援する。				
○事業内容 コミュニティ振興会に対する、ひとづくり・まちづくり総合交付金の交付				
○事業実績・説明 コミュニティ振興会に対し、それぞれの地域課題解決を図るための自主的に使える財源として交付金を交付した。 各部署の補助金等のうち統合できるものは交付金への統合化を図り、さらに自治会等への交付金についてはコミュニティ振興会に一括交付した後、各振興会から各自自治会等へ交付されている。				
(1) 使途を特定しない交付金 130,042,820 円				
【内訳】				
基礎交付額 89,320,000 円				
敬老会事業加算 28,127,520 円				
体育振興会事業加算 2,269,800 円				
自主防災協議会事業加算 300,000 円				
地域の教育力向上事業加算 7,275,000 円				
東山利活用事業加算 48,500 円				
廃棄物減量推進活動加算 1,552,000 円				
地域計画加算 1,000,000 円				
人材育成加算 150,000 円				
(2) 特定交付金 32,881,762 円				
【内訳】				
自治会運営交付金 20,977,000 円				
空き家等見守り隊加算 1,764,000 円				
町をきれいにする週間協力加算 1,045,000 円				
民俗芸能保存会交付金 824,500 円				
交通安全対策加算 1,258,000 円				
集落支援員設置加算 7,013,262 円				
備 考	○主な特定財源 過疎対策事業債（市債） 51,100,000円			

コミュニティ振興事業 事後評価シート			
総合計画	第5章 > 政策1 > 施策1		
個別計画	協働の地域づくり		
上位	上位施策の最終成果		
施策	住民が安全、安心に暮らし続けられる住みよい社会とするため、住民、地域、行政がそれぞれの役割を分担して、協働の地域づくりを進める。		
の	成果指標	目標値等	R3実績値等
概	【総】地域住民自らが主体となった地域のありたい姿を協議する場の設定（平成30年度～令和4年度累計）	10地域	1地域 (累計8地域)
要	【総】地域共創コーディネーターが携わった取り組み数（平成30年度～令和4年度累計）	25件	9件 (累計31件)
担	活動・手段指標	目標値等	R3実績値等
当	地域計画策定の取り組み	2地区/年	6地区
課	地域人材育成にかかる取り組み	3人/年	1人
に	項目	評価	説明
よ	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	計画策定に取り組むコミュニティ振興会が増えた反面、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域共創コーディネーター養成講座の受講を見送るケースがあったため。
る	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	地域のありたい姿を協議することが、地域住民自らが主体的に取り組む意識の醸成につながるから、コミュニティの活性化に資するものである。
事	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	地域課題を自分事として捉え、地域計画策定に取り組むコミュニティ振興会が増えてきており、成果指標の目標に近づいてきている。
務	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	人口減少の地域社会においては、市民と行政との協働の必要性は高まっており、住民主体の地域活動を促進することは社会の要請である。
の	本市が行わなければならない事業なのか。	○	地域活性化の取り組みを交付金により支援するもので、収益性も無いことから、行政が担うべき事業である。
概	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	目標達成の支援策として、地域住民主体の地域づくりに資するものである。
要	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	各部署の補助金等のうち、統合できるものは交付金への統合化を図っている。
方	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
向	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	集落支援員設置加算の新設及び各総合支所で交付していた交付金（モデル事業分）を、まちづくり推進課に統合したため増額となったものである。
性	R5以降の方向性	継続（事務事業を継続）	地域の将来を担う自治会運営に携わる人材が不足していることから、交付金による継続した支援に加え、市職員などによる人的な支援を充実させていく。
備			
考			

款 項 目	2 款 総務費	1 項 総務管理費	10 目 地域活動推進費	所 属 R3 市民部まちづくり推進課 R2 市民部まちづくり推進課
事 業 名	市民協働・公益活動推進事業 【継続事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
11,482,000	11,054,258	0	427,742	96.3%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	0	10,949,678	104,580
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
11,765,000	10,760,976	293,282		
目 的 ・ 趣 旨				
市民等の自発的なボランティア・公益活動を支援するとともに、公益活動団体と市が協働し知恵を出し合うことで、多様化する地域課題の解決や新たな価値の創造を目指す。				
○事業内容 ボランティア・公益活動センターの運営、公益活動支援補助金等の交付を通じた、市民、団体、事業者、地域コミュニティ及び行政が連携した協働のまちづくりの推進				
○事業実績・説明 (1) ボランティア・公益活動推進委員会の開催 62,650円 ボランティア・公益活動推進委員会を2回(4月、2月)開催し、ボランティア・公益活動センターの事業内容、公益活動への補助制度等について協議、検討を行った。				
(2) ボランティア・公益活動センター(ボラポートさかた)の運営 9,244,000円 ・公益活動のコーディネート(ボランティア・公益活動推進委員3人配置) ・ボランティア活動へ参加する機会の提供(夏のボランティア体験) ・ブックレットによる市民への公益活動団体の紹介 ・公益活動団体の登録及び活動PR、研修及び情報提供 ・ボランティアコーディネーションカ3級検定の実施(地域共創センター共催) ※ボランティア・公益活動センター登録の公益活動団体数				
	R1年度	R2年度	R3年度	
登録団体数	139団体	142団体	140団体	
(3) 市民主体の公益活動を支援するための各種補助金の交付				
・公益活動支援補助金 1,036,000円				
	R1年度	R2年度	R3年度	
交付事業数	8事業	9事業	7事業	
交付金額	1,551,000円	1,632,000円	1,036,000円	
・飛鳥ボランティア活動支援補助金 567,930円				
	R1年度	R2年度	R3年度	
団体・人数	9団体・168人	3団体・31人	9団体・170人	
交付金額	496,860円	112,030円	567,930円	
・ボランティア連絡協議会運営補助金 94,000円				
(4) 市と公益活動団体による協働事業の調整 ・公益活動団体協働提案負担金制度を新設し3事業採択した(令和4年度実施予定)。				
(5) 公益活動支援基金の運営(基金利子の積み立て) 49,678円				
備 考	○主な特定財源 公益活動支援基金繰入金 10,900,000円 公益活動支援基金利子 49,678円			

市民協働・公益活動推進事業 事後評価シート				
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第1章 > 政策1 > 施策5 市民活動等の支援等		
	個別計画	酒田市公益活動推進のための基本方針		
	上位施策の最終成果			
市民、公益活動団体、事業者、地域コミュニティ及び市がそれぞれの役割を明らかにしながら公益活動を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築する。				
の 概 要	成 果 指 標		目標値等	R3実績値等
	【総】ボランティア・市民活動に参加した市民の割合(令和4年度)		40%	19.5%
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等	R3実績値等
	ボランティア・公益活動センター登録団体数		165団体	140団体
	ボランティア・公益活動センターの利用人数		10,000人	3,153人
評 価	項目	評価	説明	
	有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	新型コロナウイルス感染症の影響で、新たなニーズが生まれ新規発足団体もあった一方、全体では活動自粛する傾向が強く、利用人数、登録団体数ともに減少した。
		本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	登録団体数や利用人数の増加は、ボランティアのコーディネートや公益活動団体への支援機会の増加につながり、公益活動の推進に寄与する。
		上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止したボランティアイベント等も多数あり、目標値を下回る結果となった。
		事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	地域課題が多様化していく中で、行政だけでこれらに対応することは現実的ではなく、市民による公益活動の意義は増しており、ニーズを反映した事業である。
方 向 性	必要性	本市が行わなければならない事業なのか。	○	複雑化する行政課題の解決に向けて、問題意識を共有し課題解決等のノウハウを持つボランティア・公益活動団体とともに担う必要がある。
		上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	公益活動のコーディネートや各種補助金による公益活動の支援は、市民による公益活動の活性化につながり、豊かで活力ある地域社会の構築に貢献している。
		事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	公益活動支援補助金について、審査基準の厳格化を図り、公益性に乏しい事業等は補助対象とならないように改めている。
備 考	効率性	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
		支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-	
	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	公益活動支援補助金のほか、令和3年度に新設した公益活動団体協働提案負担金制度等の効果を検証しながら、市民協働の推進に取り組む。	

款 項 目	3 款 民生費	1 項 社会福祉費	3 目 障がい者自立支援費	所 属 R3 健康福祉部福祉課 R2 健康福祉部福祉課
事業名	地域活動支援センター事業 【継続事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
11,365,000	10,370,000	0	995,000	91.2%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
945,246	472,503	0	0	8,952,251
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
11,365,000	10,786,000	△416,000		
目的・趣旨				
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律における地域活動支援センターとして、障がい者の創作活動または生産活動等の機会提供などの支援を行う。				
事業概要	○事業内容 障がい者の地域活動支援センター（小規模作業型、教室型）の運営に対して助成を行った。			
	○事業実績・説明 (1) 小規模作業型			
	名称	特定非営利活動法人 みつば		
	職員	施設長1名、指導員1名		
	通所利用者数	22人		
	延べ利用者数	1,523人		
	作業内容	貸衣装小物のアイロン掛け 段ボールの組立 リサイクル（分解）作業		
	生活指導	家庭生活学習、社会生活学習 ミーティング、レクリエーション		
	助成額	6,365,000円		
	(2) 教室型			
名称	特定非営利活動法人 酒田市障がい者福祉会			
職員	施設長1名、指導員2名			
延べ利用者数	3,308人			
教室名	カラオケ、パソコン、詩吟、 軽スポーツ、書道、趣味の会、 手芸、グランドゴルフ、 ゲートボール、カローリング、 視覚障がい卓球、手話			
助成額	4,005,000円			
備考	○主な特定財源 地域生活支援事業費補助金（国） 945,246円 地域生活支援事業費等補助金（県） 472,503円			

地域活動支援センター事業 事後評価シート				
上位概要	総合計画	第4章 > 政策1 > 施策1 保健福祉の向上		
	個別計画	第5期 酒田市障がい者福祉計画(令和3年度~令和8年度)		
	上位施策の最終成果			
	障がいのある人が地域で安心して生活できる仕組みを構築し、障がいのあるなしにかかわらず、誰もが自分らしく生きることのできるまちづくりに寄与する。			
概要	成果指標	目標値等	R3実績値等	
	【総】障がい者雇用率（令和4年度）	2.4%	2.14%	
担当課による事後評価・方向性	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等
	年間延べ利用者数		6,200人	4,831人
	有効性	項目	評価	説明
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	コロナ禍による活動自粛のため昨年度同様利用者数はコロナ禍以前に比較すると減少している。
	必要性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	創作活動または生産活動、社会との交流の機会を提供し、障がい者の自立及び社会参加を促進している。
		上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	市中景気動向等により障がい者雇用率は低下したが、障がい者やその家族が地域で安心して生活できる仕組みの構築に貢献している。
	方向性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	一般就労や福祉的就労に至らない障がい者に、創作活動または生産活動、社会との交流の機会を提供している。
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	障害者総合支援法に基づき、市町村が実施する事業に位置づけられている。
	効率性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	創作活動または生産活動、社会との交流の機会を提供し、障がい者の自立及び社会参加の促進している。
		事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	事業主体が事業を迅速的、効率的に行えるよう、補助金の事前交付を行い、事業の実績により補助金の精算を行っている。
方向性	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-		
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-		
備考	R5以降の方向性	継続（事務事業を継続）	障害者総合支援法に基づき、市町村が実施する事業に位置づけられている。	

款 項 目	3 款 民生費	1 項 社会福祉費	5 目 老人福祉費	所 属 R3 健康福祉部福祉課 R2 健康福祉部福祉課
事業名	老人クラブ助成事業 【継続 事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
3,396,000	3,327,241	0	68,759	98.0%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	1,405,000	0	0	1,922,241
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位：円)	
4,364,000	3,956,453	△629,212		
目 的 ・ 趣 旨				
地域を基盤として、高齢者自らの生きがいと健康づくりを進める活動やボランティア活動、社会奉仕等の活動を促進するため、老人クラブに対して助成する。				
事業概要	○事業内容 市内の老人クラブ活動のうち、社会奉仕活動、教養講座開設活動、スポーツ振興活動の各事業に対して補助金を交付した。 また、酒田市老人クラブ連合会に対して、市内の老人クラブの活動を促進する事業、健康づくり・介護予防支援事業、地域支え合い事業などについて補助金を交付するとともに、老人クラブ活動支援員に係る人件費の一部を補助した。			
	○事業実績・説明 (1) 補助金の内訳 ・老人クラブ連合会補助金 238,720円 ・老人クラブ活動費補助金 2,668,521円 ・老人クラブ活動指導員設置事業費補助金 420,000円 (2) 老人クラブの状況			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
老人クラブ数		100団体	95団体	89団体
老人クラブ会員数		4,106人	3,764人	3,468人
備考	○主な特定財源 老人クラブ活動助成費補助金(県) 1,405,000円			

老人クラブ助成事業 事後評価シート			
上位	総合計画	第4章 > 政策1 > 施策1 保健福祉の向上	
	個別計画	酒田市高齢者保健福祉計画(令和3年度~令和5年度)	
施策	上位施策の最終成果		
	高齢者が地域で安心して生活できる仕組みの構築		
概要	成果指標		目標値等
	【総】地域住民による生活支援や介護予防・居場所づくりに取組む団体数(令和4年度)		40団体
概要	【個】令和3年度の単位老人クラブの会員数(令和3年度)		3,764人
	R3実績値等		19団体
概要	活動・手段指標		目標値等
	老人クラブ連合会及び単位老人クラブによる各種活動回数		3,500回
概要	R3実績値等		1,469回
	担 当 課 による 事務 事業 の 事後 評価 ・ 方向 性		
概要	項目	評価	説明
	有効性	○	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。 本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。 上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。
概要	必要性	△	コロナ禍により当初予定していた事業が中止になったこと、単位老人クラブ数の減少による。 地域を基盤として、ボランティア活動、社会奉仕等の活動を行うことで、高齢者の生きがいや健康、地域の支え合いの体制づくりにつながり、適切である。 単位老人クラブのクラブ数、会員数の減少が続いている。
	方向性	△	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。 本市が行わなければならない事業なのか。 上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。
概要	効率性	△	高齢者のライフスタイルの多様化によりクラブ数・会員数は減少傾向だが、地域を基盤とした唯一の高齢者団体であり、老人クラブを拠り所としている高齢者も多い。 老人福祉法により老人クラブ活動への支援について努力義務が課されており、高齢者の健康増進と生きがいの高揚を図るためにも必要な事業である。 地域を基盤として組織化された唯一の高齢者団体であり、高齢者の生きがいが多様化している現在でも、老人クラブを拠り所としている高齢者も多い。
	方向性	△	事業の効率化に向けた取組は行われているか。 令和元年度から3年度までの3年間で、補助金を県基準に合わせて削減した。
概要	方向性	-	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。
	方向性	-	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。
備考	R5以降の方向性	継続(事務事業を継続)	住み慣れた地域で組織されている老人クラブの活動がひとつの生きがいであり居場所となっている高齢者も多く、今後も本事業を継続する。

款 項 目	4 款 衛生費	1 項 保健衛生費	1 目 保健衛生総務費	所 属 R3 健康福祉部健康課 R2 健康福祉部健康課
事 業 名	食習慣改善事業 【継続事業】			
予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③	執行率②/①
1,273,000	1,101,017	0	171,983	86.5%
支出済額②の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
0	0	0	52,400	1,048,617
前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)	
1,775,000	1,561,090	△460,073		
目 的 ・ 趣 旨				
さかた健康づくりビジョン【健康さかた21(第3期)】(計画期間:平成29年度~令和5年度)を推進するため、栄養改善教室や各種食育教室を開催し、市民の健康増進を図る。				
○事業内容 食生活改善推進員が地域で質の高い活動を行えるように講習を実施し、食生活改善推進員と行政が連携を図りながら市民に対して栄養改善の普及を行った。 また、食生活改善推進員の養成講習会を行った。				
○事業実績・説明 各種栄養食生活改善事業 (1) 減塩および野菜摂取についての指導人数				
		令和2年度	令和3年度	
中央研修会参加者		155人	179人	
中央研修会の伝達講習会参加者		2,179人	2,152人	
出前講座参加者		253人	90人	
リーフレット配布		395人	357人	
合計		2,982人	2,778人	
(2) 食生活改善推進員養成講習会				
年 度	回 数	受講者数	修了者数	
令和元年度	12回	18人	13人	
令和2年度	0回	0人	0人	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
令和3年度	10回	15人	12人	
備 考	○主な特定財源 栄養改善各種講習会参加負担金 52,400円			

食習慣改善事業 事後評価シート			
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第4章 > 政策3 > 施策1 健康寿命の延伸	
	個別計画	さかた健康づくりビジョン(平成29年度~令和5年度)【健康さかた21(第3期)】	
	上位施策の最終成果		
	さかた健康づくりビジョン【健康さかた21(第3期)】の基本理念である~健やかさかたのばそう健康寿命!~の実現を目指し、「健康寿命の延伸」、「壮年期死亡の減少」及び「生活の質の向上」を図る。		
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	成 果 指 標	目標値等	R3実績値等
	【総】健康寿命(令和4年度)(日常生活動作が自立している期間の平均)	75歳以上	—
	【個】40歳代以上男性の肥満の割合(肥満者: BMI 25以上)(令和5年度)	28%以下	—
	【個】20歳代女性のやせの者の割合(やせの者: BMI 18.5未満)(令和5年度)	20%以下	—
効 率 性	活 動 ・ 手 段 指 標	目標値等	R3実績値等
	減塩および野菜摂取についての指導人数	3,000人	2,778人
	食生活改善推進員養成講習会修了者数	20人	12人
	項目	評価	説明
有 効 性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	食生活改善推進員に対する講習会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、活動を制限したため。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	△	新型コロナウイルス感染症感染拡大の中で、対策を講じながら出来ることをおこなってきたが、本市の健康寿命が公表されないことから指標の見直しが必要である。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	○	食生活改善推進員の高齢化による会員数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、調理実習を行う・実習は行わずに講話を行う・一言添えて資料を配布するなど、工夫して活動を行った。
必 要 性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	健診結果より、酒田市民の傾向として、高血圧・糖尿病・心疾患が多いことから、食習慣改善のポイントを押さえ、減塩と野菜摂取をテーマとした研修会を行った。
	本市が行わなければならない事業なのか。	○	健康づくり及び栄養、食生活の改善に関する施策については、地域保健法、健康増進法に基づき行政の責任で実施する必要がある。
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	食生活改善推進員に、行政栄養士が研修を実施し、各地域において質の高い活動ができるよう普及啓発活動へのきめ細かな支援を行い、市民の健康づくりの普及推進を図っている。
効 率 性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	行政栄養士が地区住民に働きかけるだけでなく、食生活改善推進協議会という大きな組織を使って健康づくりの普及啓発活動を行っている。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	—	
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	前年度実施した「酒田ごはん」の発刊、増刷がなくなったため妥当である。
R5以降の方向性	見直し(目的、指標、事務内容の見直し)	引き続き、食生活改善推進協議会の活動を支援していくが、総合計画後期計画の策定に向け、指標の見直しを図る。	
備 考			

款 項 目	6款 農林水産業費	1項 農業費	3目 農業振興費	所 属 R3 農林水産部農政課 R2 農林水産部農政課																					
事 業 名	さかた農産物販路・消費拡大事業 【継続事業】																								
予算現額①	5,493,000	支出済額②	5,424,679	翌年度繰越額③	0	不用額①-②-③	68,321	執行率②/①	98.8%																
支出済額②の財源内訳																									
国庫支出金	0	県支出金	0	市債	0	その他	0	一般財源	5,424,679																
前年度予算現額	14,527,000	前年度支出済額④	14,310,785	差額②-④	△8,886,106	(単位：円)																			
目 的 ・ 趣 旨																									
酒田産米の消費拡大や食育の取り組みを通じて地産地消を図る。また、農業者自らが行う販路・消費拡大への取組みを支援し、産地間競争を勝ち抜ける農業者の育成と農業所得の向上を目指す。																									
○事業内容 食育・地産地消推進委員会の開催や食育活動の支援により地産地消を推進したほか、米消費拡大推進協議会による取組みにより消費拡大を図った。また、農業者自らが行う販路・消費拡大への取組みを支援し、農業所得の向上を図った。																									
○事業実績・説明																									
(1) 食育・地産地消推進委員会の開催 134,865円 ・第4次食育・地産地消推進計画の策定に向けて年3回、委員会を開催した。																									
(2) 「酒田女鶴」の商標登録の更新 67,200円																									
(3) メロンの日PRイベントの開催 71,614円 ・開催日/7月1日～9日、会場/市役所フリースペース、内容/パネル展示等																									
(4) 地域産米学校給食負担金 501,000円 ・米飯学校給食用米の1等米と2等米との価格差及びつや姫・雪若丸給食実施に伴う米の価格差を酒田市米消費拡大推進協議会を通じ負担した。																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数量</td> <td>77,897kg</td> <td>68,759kg</td> <td>71,340kg</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>757,174円</td> <td>572,804円</td> <td>868,708円</td> </tr> <tr> <td>対象(市内小中学校)</td> <td>全29校 7,611名</td> <td>全29校 7,725名</td> <td>全29校 7,542名</td> </tr> </tbody> </table>										区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	数量	77,897kg	68,759kg	71,340kg	金額	757,174円	572,804円	868,708円	対象(市内小中学校)	全29校 7,611名	全29校 7,725名	全29校 7,542名
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度																						
数量	77,897kg	68,759kg	71,340kg																						
金額	757,174円	572,804円	868,708円																						
対象(市内小中学校)	全29校 7,611名	全29校 7,725名	全29校 7,542名																						
※令和3年度はブランド米給食としてつや姫給食5回、雪若丸給食5回を実施した。																									
(5) 米消費拡大推進協議会負担金 2,550,000円 ・各種イベントにおけるシート米の提供 4,202個(令和元年度)、1,540個(令和2年度)、1,780個(令和3年度) ・米粉PR事業として、米粉パン給食(市内小中学校/年2回)を実施した。																									
(6) 酒田の花づくり応援事業負担金(再生協) 1,500,000円 ・婚姻された市民に対し、酒田産の花をプレゼントした。引換件数/97件 ・市庁舎(本庁及び各総合支所)やNHK情報番組「やままる」スタジオ内で酒田産花きを使用したフラワーアレンジメントを定期的に展示した。 実施回数 庁舎展示/12回、NHK情報番組展示/12回 ・園場見学及び生け花体験による花育授業を実施した。 開催日/10月13日、対象/十坂小学校5年生児童27名																									
(7) 農産物販路・消費拡大支援事業費補助金 300,000円 ・新規販路拡大一般コース 補助金上限額300,000円/件、交付件数実績/1件(3社と商談成立)																									
(8) 食育交流活動補助金 300,000円 ・補助金上限額25,000円/件、交付件数実績/12件																									
備考																									

さかた農産物販路・消費拡大事業 事後評価シート			
上位 施策 の 概 要	総合計画	第2章 > 政策4 > 施策4	
	個別計画	酒田市の農業の方向性(平成30年度～令和4年度)	
	上位施策の最終成果		
	食育を通じた地産地消の推進や、農業者等が自ら行う庄内圏域外での販路・消費拡大への取組みを支援し、農業所得の向上や農業産出額の増加に寄与する。		
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価	活動・手段指標		目標値等 R3実績値等
	販路拡大につながった件数		1件 1件
	食育交流活動の取組件数		15件 12件
	有効性	項目	評価
必 要 性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	コロナ禍のため食育交流活動の取組件数は減少したが、販路拡大については農業関係事業者への聞き取りを行いながら取組み意欲のある者に支援を実施した。
	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	市内外へ本市農産物の魅力を発信し、酒田産農産物への理解を深め価値を高めることで、消費拡大につながる。
	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	目標に対する遅れはあるがコロナ禍においても本市農産物のPRや食育などの総合的な取組みを継続することで農産物の売上げや農業産出額の増加に寄与している。
	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	食育計画策定時の市民アンケートの結果から、回答者のうち9割を超える方が「食育や地場産品に関心がある」と回答していることからニーズは反映されている。
効 率 性	本市が行わなければならない事業なのか。	○	食育・地産地消の推進は、展開する分野が幅広いことから市が先頭に立つことで関係者からの協力が得られ実現できている。
	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	食育・地産地消の推進や販路・消費拡大に対する農業者支援は、地場消費への理解を深めることや農業所得の向上につながるため、必要かつ適切な事業である。
	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	行政、教育関係者、医療関係者、食品関連事業者など、幅広い分野の委員からなる酒田市食育・地産地消推進委員会を設置することで、効率的に取り組んでいる。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
R5以降の方向性	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	前年度は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、地産地消の実証実験等に取り組んだため。
	見直し(目的、指標、事業内容の見直し)		地域産米学校給食負担金を廃しコストを縮小するほか、農林水産まつりの在り方を検討するなど事業内容の見直しを図りながら引き続き成果達成に向けて取り組む。
備考			

款 項 目	6 款 農林水産業費	3 項 水産業費	2 目 水産振興費	所 属 R3 農林水産部農林水産課 R2 農林水産部農林水産課
事 業 名	地魚ブランド力向上・安定供給推進事業 【継続 事業】			
	予算現額①	支出済額②	翌年度繰越額③	不用額①-②-③
	1,862,000	1,667,010	0	194,990
	執行率②/① 89.5%			
	支出済額②の財源内訳			
	国庫支出金	県支出金	市債	その他
	313,400	0	0	0
	一般財源 1,353,610			
	前年度予算現額	前年度支出済額④	差額②-④	(単位:円)
	2,616,000	1,861,280	△194,270	
	目 的 ・ 趣 旨			
	魚食普及・食育教室や市HP等を通して、地魚の認知度向上と地産地消を推進する。また、県・沿岸市町等との連携により、庄内浜ブランド構築により魚価向上を図るとともに、活魚など付加価値向上による新たなブランド開発などの取組みを推進する。			
事 務 事 業 の 概 要	<p>○事業内容</p> <p>ブランド化について、県、県漁協、漁業者、流通・飲食店、沿岸市町が一体となった「庄内浜ブランド創出協議会」に参画し、各種キャンペーン開催のほか、活イカのブランド化を図るため、新たなブランド魚種として提案した。また、山形市内に出店する県漁協直営店を支援し、県内陸部への流通拡大を促進した。</p> <p>なお、地産地消や魚食普及を目的とする食育教室はコロナ禍により開催できなかった。</p> <p>○事業実績・説明</p> <p>(1) 庄内浜ブランド創出協議会負担金 408,000円 事業費2,400,000円(負担割合:漁協、県、沿岸2市1町※各1/3) ※沿岸3市町の負担割合は、直近5か年の漁業生産額の按分により算出 庄内おぼこサワラ、庄内浜天然トラフグ、庄内北前ガニの3ブランド魚種に加え活イカを含めたスルメイカを本市が提案し、検討部会により検討が始まった。</p> <p>(2) 県漁協直営店「庄内海丸」支援補助金 510,000円 事業費3,000,000円(負担割合は(1)に同じ) 冷凍技術を活用した安定供給化と、新たな宅配商材の開発などを支援した。</p> <p>(3) 活魚出荷実証試験業務委託及び先進地視察 409,000円 活イカ実証実験業務を県漁協に委託し、県水産研究所の協力のもと試験を行った。時化や不漁により12月に1回のみ試験となったが、来年度につながるデータが得られた。 先進地視察は函館を予定していたが、コロナ禍の影響により実施できなかった。</p> <p>(4) ブランドPR事業 340,010円 酒田船凍いかブランドシールを40,000枚作成し、スーパー、量販店等の店頭販売で使用し、ブランドイメージの構築を図った。 いかのまち酒田をPRするため、スルメイカに特化したプロモーションビデオを製作してブランド化の推進を図った。</p>			
備 考	○主な特定財源 地方創生推進交付金(国) 313,400円			


地魚ブランド力向上・安定供給推進事業 事後評価シート			
上 位 施 策 の 概 要	総合計画	第2章 > 政策6 > 施策3 庄内浜産水産物の認知度向上・消費拡大	
	個別計画		
上 位 施 策 の 概 要	上 位 施 策 の 最 終 成 果		
	庄内浜産水産物の多品種少量の特徴を活かし、ブランド化による認知度向上と安定供給の促進により流通体制を強化し、市内水揚金額の増加に寄与すること。		
	成 果 指 標	目標値等	R3実績値等
	【総】市内水揚金額(令和4年)	1,500百万円	930百万円
【総】県内内陸部における庄内浜産水産物の流通比率	15%	5.2%	
担 当 課 による 事務 事業 の 事後 評価 ・ 方向 性	活 動 ・ 手 段 指 標		目標値等 R3実績値等
	県内漁業水揚金額		33億円 21億円
担 当 課 による 事務 事業 の 事後 評価 ・ 方向 性	項目	評価	説明
	有効性	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	スルメイカの漁獲量の減少によるもの。
	必要性	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○ ブランド化された魚種については魚価向上が図られ成果に結びついている。
	方向性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△ 目標に対する実績の進捗に遅れはあるものの、ブランド化魚種の認知度や魚価向上が図られている面では成果が上がっていると考ええる。
	方向性	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○ 魚食普及や消費喚起により魚価を高め漁業所得を増やすことにより持続可能な漁業の構築につながる。
	方向性	本市が行わなければならない事業なのか。	○ 消費者の認知度を高める取組みは、行政も一体となった取り組みが必要である。
	方向性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○ 漁業者や漁協、仲買人、料理人をはじめ、県、沿岸市町など関係機関が一体となり取り組むことで相乗的な効果が期待できる重要な事業である。
効 率 性	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	○	県や沿岸市町等との連携により、事業が効率的に行われている。
	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	-	
備 考	R5以降の方向性	見直し(目的、指標、事務内容の見直し)	事業(1)(2)は、水産業振興総務管理に統合し、(3)(4)については、いか釣り漁業支援事業に統合し、効率化を図り継続する。

款 項 目	2 款 総務費	1 項 総務管理費	11 目 地域振興費	所 属 R3 松山総合支所 R2 松山総合支所地域振興課					
事 業 名	松山にぎわい創出事業 【継続 事業】								
予算現額①	58,000	支出済額②	58,000	翌年度繰越額③	0	不用額①-②-③	0	執行率②/①	100.0%
支出済額②の財源内訳									
国庫支出金	29,000	県支出金	0	市債	0	その他	0	一般財源	29,000
前年度予算現額	567,000	前年度支出済額④	567,000	差額②-④	△509,000	(単位：円)			
目 的 ・ 趣 旨									
松山歴史公園を中心とした城下町松山の魅力を発信するイベント等を実施することで、松山地区のにぎわいを創出し、交流人口、関係人口の増加と地域の活性化を図る。									
○事業内容 地元有志で組織した松山にぎわい創出実行委員会を主体に、NPO、商工会、市が連携して、まつやま大手門くらふとフェアなど城下町松山の魅力をPRする地域振興イベントを実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。									
○事業実績・説明 松山にぎわい創出実行委員会負担金 58,000円 まつやま大手門くらふとフェアと城下町松山秋まつりは中止となったが、イベントの開催準備のための消耗品等分を負担金として支出した。									
まつやま大手門くらふとフェアの開催状況									
回数	開催日	出店数	動員数						
第1回	平成27年9月26日～27日	41 団体	4,500 名						
第2回	平成28年9月24日～25日	79 団体	5,100 名						
第3回	平成29年9月23日～24日	106 団体	6,200 名						
第4回	平成30年9月22日～23日	139 団体	7,300 名						
第5回	令和元年9月28日～29日	147 団体	8,800 名						
第6回	令和2年9月26日～27日	100 団体	7,100 名						
第7回	令和3年9月25日～26日 (予定)	中止							
松山にぎわい創出実行委員会の開催状況 第1回 令和3年5月6日 松山にぎわい創出実行委員会 第1回ワーキング 第2回 令和3年7月20日 松山にぎわい創出実行委員会 拡大委員会 第3回 令和3年8月24日 松山にぎわい創出実行委員会 第2回ワーキング ※第3回でまつやま大手門くらふとフェアの中止を決定									
備 考	○主な特定財源 地方創生推進交付金(国) 29,000円								

松山にぎわい創出事業 事後評価シート			
総合計画	第5章 > 政策5 > 施策1		
個別計画	担い手の確保・育成等		
上位	上位施策の最終成果		
施策	地域にある宝(資源)を磨き、住民と関係団体が一丸となって、明確なターゲットに向けて新たな発想で価値を発信することにより交流人口を増やす。		
の	成果指標	目標値等	R3実績値等
概	【総】八幡、松山、平田地域、飛鳥地区の交流人口の増加(令和4年度)	100万人	63.6万人
要	上記のうち、松山地域の交流人口		3.7万人
	活動・手段指標	目標値等	R3実績値等
	まつやま大手門くらふとフェアの来客数	9,000人	-
担	項目	評価	説明
当	活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、メイン事業のまつやま大手門くらふとフェアが中止となった。
課	本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	県内外から出店者や来場者が多く集まり、知名度も高いことから、交流人口の増加につながっている。
に	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	×	新型コロナウイルス感染症の影響により、メイン事業であるまつやま大手門くらふとフェアが中止となったため、成果を上げることが出来なかった。
よ	事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	地域のにぎわい創出と交流人口の拡大は、地域住民の意向を反映しており、くらふとフェアは、クラフト作家と購買者が集う、絶好の機会となっている。
る	本市が行わなければならない事業なのか。	○	地域の関係団体が、一緒になって取組む地域づくり事業であり、一定の支援は必要である。
事	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	地域のにぎわい創出や、交流人口の拡大に大きく貢献している。
務	事業の効率化に向けた取組は行われているか。	△	松山地域振興事業の3つの外郭団体について、事務や経理の軽減を図るため、統合を検討している。
事	執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。	-	
業	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	コロナ禍により、メイン事業であるまつやま大手門くらふとフェアを中止したため、活動費分が減額となった。
の	R5以降の方向性	その他(右欄に記載)	交流人口を増やして地域活性化を図るため、松山地域振興事業の中で継続する。
概			
要			
備			
考			

款 項 目	2款 総務費	1項 総務管理費	11目 地域振興費	所 属	R3 松山総合支所 R2 松山総合支所地域振興課
事業名	松山の宝推進事業 【継続事業】				
予算現額①	192,000	支出済額②	191,600	翌年度繰越額③	0
				不用額①-②-③	400
				執行率②/①	99.8%
支出済額②の財源内訳					
国庫支出金	90,800	県支出金	0	市債	0
				その他	0
				一般財源	100,800
前年度予算現額	656,000	前年度支出済額④	269,000	差額②-④	△77,400
				(単位:円)	
目的・趣旨					
県教育委員会の「未来に伝える山形の宝」に登録された文化的地域資源群を活用・情報発信することで、城下町の風情と田園や最上川の景観を望む地域を「松山の宝」として保存と継承を通して交流人口の拡大を図る。					
○事業内容 松山の宝推進協議会と連携し、県の「未来に伝える山形の宝」に『城下町の町割り・歴史と文化そして最上川の景観』として登録された既存施設・文化財について、「松山の宝」として地域の内外に発信を行った。					
○事業実績・説明 松山の宝推進協議会負担金 191,600円					
(1) 松山の宝ワークショップ 地域の方を講師に、松山地区の歴史背景と文化を語り合うことで、地域住民に松山の魅力を再認識してもらった茶話会を松山城址館で開催した。 ・実施回数：4回 ・参加者総数：45名					
(2) ホテル観賞ウイーク ホテル観賞と地域資産である「粽田（ちまきだ）池」を一緒に発信することで、松山地域内外への浸透を図った。 ・実施日：6月21日～27日（6月22日・23日は雨天中止） ・参加者総数：249名					
(3) 上堰看板設置事業 松山を訪れる方が、松山歴史公園周辺の城下町の風情を感じながら散策できる案内看板を上堰に設置した。					
なお、予定していた、郷土史に関する講演会、大手門ピアノ、甲冑着付け講座、大手門tubeは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。					
備考	○主な特定財源 地方創生推進交付金(国) 90,800円				

松山の宝推進事業 事後評価シート						
上位 施策 の 概 要	総合計画	第5章 > 政策5 > 施策1				
	個別計画	担い手の確保・育成等				
	上位施策の最終成果					
	地域にある宝(資源)を磨き、住民と関係団体が一丸となって、明確なターゲットに向けて新たな発想で価値を発信することにより交流人口を増やす。					
概 要	成果指標		目標値等	R3実績値等		
	【総】八幡、松山、平田地域、飛鳥地区の交流人口の増加(令和4年度)		100万人	63.6万人		
	上記のうち、松山地域の交流人口			3.7万人		
担 当 課 に よ る 事 務 事 業 の 事 後 評 価 ・ 方 向 性	活動・手段指標		目標値等	R3実績値等		
	協議会事業参加者数		500人	294人		
	有 効 性	項目	評価	説明		
		活動・手段指標がR3実績値等となった要因は何か。	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたイベントが一部中止となった。		
		本事業の成果と上位施策の最終成果及び成果指標との関係は適切か。	○	城下町の歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開し、酒田市の魅力、松山地域の特色を市内外へアピールする内容となっている。		
	必 要 性	上位施策の目的達成に対し、意図した成果が上がっているか。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたイベントが一部中止となったことで、成果は限定的となった。		
		事業の目的は、市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	郷土の歴史文化や地域資源について住民の関心は高く、この事業を通して郷土愛を育める内容となっている。		
		本市が行わなければならない事業なのか。	○	地域住民と関係団体、市が一体となって取組む地域づくり事業であり、一定の支援は必要である。		
	効 率 性	上位施策の達成手段として必要かつ適切な事業か。	○	地域住民に地域文化の継承や情報発信を行い、地域の魅力についての関心を高める事業となっている。		
		事業の効率化に向けた取組は行われているか。	△	松山地域振興事業の3つの外郭団体について、事務や経理の軽減を図るため、統合を検討している。		
執行率②/①が低い場合、その理由は妥当か。		-				
備 考	支出済額②と前年度支出済額④の差が大きい場合、その理由は妥当か。	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたイベントが一部中止となったため。			
	R5以降の方向性	その他(右欄に記載)	交流人口を増やして地域活性化を図るため、松山地域振興事業の中で継続する。			

酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・体験・鑑賞】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>3 学校教育における文化芸術活動の充実</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化</p> <p>12 多様な分野との連携及びネットワークづくり</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p style="text-align: center;">アーティスト・イン・レジデンス事業 (音楽)</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 国内を代表する実演家が地域に一定期間滞在し、地域の小学校でのクラスコンサートやワークショップ、そして環境の整った希望ホールでの公演を行うことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが居住する地域・生活環境の差異無く、慣れ親しんだ環境で気軽に芸術にふれる機会を創出する。 ・質の高い芸術を積極的に教育現場に取り入れ、子どもたちが芸術にふれる機会を創出することで、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する。 ・子どもたちの感性を刺激し、他者への寛容性、想像力、創造力、コミュニケーション力を育む。 ・実演家がアウトリーチで本市に滞在した後、再度本市を訪れ、希望ホールでのワークショップ、公演・リサイタルを行うなど、多角的に継続して市民に芸術の魅力を発信することで、1度限りの「点」ではなく、「線」から「面」へと繋がり広がる事業展開を図る。 	<p>【アウトリーチ(小学校クラスコンサート)】</p> <p>高橋多佳子 氏(ピアノ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：8月31日(火)～9月3日(金) ●参加者数：4校4クラス101名(3校リモート開催) 一條小31名、琢成小27名、八幡小28名、松山小15名 <p>新野将之 氏(パーカッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月3日(日)～8日(金) ●参加者数：6校8クラス234名 宮野浦小66名、松陵小34名、田沢小20名、新堀小14名、若浜小62名、浜田小38名 <p>高橋和貴 氏(ヴァイオリン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月17日(日)～22日(金) ●参加者数：5校8クラス210名 泉小60名、南平田小30名、十坂小27名、松原小60名、鳥海小33名  <p>中川賢一 氏(ピアノ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：10月25日(月)～28日(木) ●参加者数：6校9クラス205名 富士見小52名、広野小16名、浜中小16名、亀ヶ崎小90名、西荒瀬小24名、黒森小7名 <ul style="list-style-type: none"> ●会場：各小学校音楽室 ※学校によっては体育館・パソコン室 ●対象：市内小学校5年生※学校によって学級編成の都合上、複式学級で実施。 ●事業内容：市内全小学校の5年生全クラスを対象に、アーティストの演奏を間近で聴き、アーティストとの対話をとおして、卒業までに必ず一度は一流の芸術にふれる機会を創出する。




酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・体験】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>3 学校教育における文化芸術活動の充実</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化</p> <p>12 多様な分野との連携及びネットワークづくり</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p style="text-align: center;">アーティスト・イン・レジデンス事業 (音楽)</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 国内を代表する実演家が地域に一定期間滞在し、地域の小学校でのクラスコンサートやワークショップ、そして環境の整った希望ホールでの公演を行うことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが居住する地域・生活環境の差異無く、慣れ親しんだ環境で気軽に芸術にふれる機会を創出する。 質の高い芸術を積極的に教育現場に取り入れ、子どもたちが芸術にふれる機会を創出することで、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する。 子どもたちの感性を刺激し、他者への寛容性、想像力、創造力、コミュニケーション力を育む。 実演家がアウトリーチで本市に滞在した後、再度本市を訪れ、希望ホールでのワークショップ、公演・リサイタルを行うなど、多角的に継続して市民に芸術の魅力を発信することで、1度限りの「点」ではなく、「線」から「面」へと繋がりが広がる事業展開を図る。 	<p>【アナリーゼワークショップ】</p> <p>新野将之アナリーゼワークショップ ●日程：10月8日(金)午後7時開演 ●入場者数：51名(一般 36名、U25 15名)</p> <p>高橋和貴アナリーゼワークショップ ●日程：10月20日(水)午後7時開演 ●入場者数：26名(一般 25名、U25 1名)</p> <p>中川賢一アナリーゼワークショップ ●日程：10月29日(金)午後7時開演 ●入場者数：21名(一般 16名、U25 5名)</p> <p>仲道郁代アナリーゼワークショップ ●日程：12月21日(火)午後7時開演 ●入場者数：107名(一般 98名、U25 9名)</p> <p>高橋多佳子アナリーゼワークショップ ●日程：1月14日(金)午後7時開演 ●入場者数：43名(一般 42名、U25 1名)</p> <p>●会場：希望ホール※高橋和貴アナリーゼワークショップのみ文化センターで実施。</p> <p>●入場料：一般500円 U25・チケット提示で無料</p> <p>●事業内容：コンサートプログラムの楽曲分析、作曲家の人物像、当時の時代背景などを、アーティスト本人が演奏を交えながら解説する。</p>



酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【鑑賞】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>3 学校教育における文化芸術活動の充実</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化</p> <p>12 多様な分野との連携及びネットワークづくり</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p align="center">アーティスト・イン・レジデンス事業 (音楽)</p>	<p align="center">一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的</p> <p>国内を代表する実演家が地域に一定期間滞在し、地域の小学校でのクラスコンサートやワークショップ、そして環境の整った希望ホールでの公演を行うことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが居住する地域・生活環境の差異無く、慣れ親しんだ環境で気軽に芸術にふれる機会を創出する。 質の高い芸術を積極的に教育現場に取り入れ、子どもたちが芸術にふれる機会を創出することで、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する。 子どもたちの感性を刺激し、他者への寛容性、想像力、創造力、コミュニケーション力を育む。 実演家がアウトリーチで本市に滞在した後、再度本市を訪れ、希望ホールでのワークショップ、公演・リサイタルを行うなど、多角的に継続して市民に芸術の魅力を発信することで、1度限りの「点」ではなく、「線」から「面」へと繋がりが広がる事業展開を図る。 	<p>【コンサート】</p> <p>新野将之パーカッション・リサイタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：11月7日(日)午後2時開演 ●入場料：S席2,500円(U-25・1,500円) A席2,000円(U-25・1,000円) ●入場者数：168名(一般120名、U25 19名、OR参加者26名、招待3名) ●発券数：171枚 ●入場率：98% ●共演：藤澤仁奈(マリンバ) <p>中川賢一ピアノ・リサイタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：11月26日(金)午後7時開演 ●入場料：S席2,500円(U-25・1,500円) A席2,000円(U-25・1,000円) ●入場者数：166名(一般107名、U25 15名、OR参加者37名、招待7名) ●発券数：176枚 ●入場率：94% <p>高橋多佳子ピアノ・リサイタル酒田公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：1月15日(土)午後2時開演 ●入場料(酒田・鶴岡公演共通)： S席/一般2,500円(U25・1,500円) A席/一般2,000円(U25・1,000円) 酒田・鶴岡公演セット券/一般4,500円(U25・2,500円) ●入場者数：222名(一般201名、U25 13名、OR参加者6名、招待2名) ●発券数：249枚 ●入場率：89% <p>高橋多佳子ピアノ・リサイタル鶴岡公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：1月16日(土)午後2時開演 ●入場者数：212名 (一般194名、U25 13名、招待5名) ●発券数：227枚 ●入場率：93% <p>仲道郁代ピアノ・リサイタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：2月19日(土)午後2時開演 ●入場料：S席3,000円(U-25・1,500円) A席2,500円(U25・1,000円) ●入場者数：388名(一般360名、U25 22名、招待6名) ※完売/定員423名、調整席12席追加 ●発券数：430枚 ●入場率：90% <p>高橋和貴アナリーゼ&ヴァイオリン・コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：2月27日(日)午後2時開演 ●入場料：S席2,000円(U-25・1,000円) A席1,500円(U-25・500円) ●入場者数：170名(一般150名、U25 7名、OR参加者7名、招待6名) ●発券数：174枚 ●入場率：98% <p>●会場：希望ホール大ホール ※コロナ対策のため全て1席空け・1階席のみ ※高橋多佳子ピアノ・リサイタル鶴岡公演のみ、荘銀タクト鶴岡で実施。</p> <p>●事業内容：アーティスト本来の魅力を音響等の環境が整ったホールで体感してもらう。</p>



酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【人材育成・参加・体験】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p>アーティスト・イン・レジデンス事業 (スタインウェイピアノ演奏体験・大ホール演奏体験)</p> <p>夏休み特別企画 中川賢一と学ぶ スタインウェイ)</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 例年実施してきた、スタインウェイピアノの演奏体験に加え、ピアニスト中川賢一氏によるスタインウェイピアノの仕組みや歴史を学ぶ特別講座と、公募の受講生への個人レッスンの公開を合わせて実施することで、プロのピアニストの多くが愛する名器スタインウェイ製のフルコンサートピアノそのものや、ピアニストから見たピアノの特徴やその魅力を学ぶ場を提供する。 地域の財産であるピアノのについて深く学ぶことで、ホールやピアノへの愛着を持っていただく。</p>	<p>【特別講座 ピアノを解体！？～スタインウェイの仕組みと歴史～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：8月1日(日)午前10時～午前11時30分 ●会場：希望ホール大ホール ●参加者数：76名(一般 49名、U25 27名) ※公開レッスンの来場者と併せて ●対象：どなたでも(要事前申込) ●入場料：無料 ●講師：中川賢一 氏(ピアニスト)、高橋俊樹 氏(調律師) ●事業内容：スタインウェイピアノの構造や歴史、魅力を中川氏が分かりやすく解説するワークショップ。 
				<p>【中川賢一 公開レッスン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：8月1日(日)午後1時～午後6時 ●会場：希望ホール大ホール ●受講者数：7名(受講生6名、特別枠1名) ●対象：山形県内在住の小学生～大学生 (プロ・セミプロを除く) ●入場料：無料 ●事業内容：公開で行う中川氏による個人レッスン。 ※申込者12名より6名を選出。 
				<p>【受講生による発表公演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：8月3日(火)午後1時～午後3時 ●会場：希望ホール大ホール ●入場料：無料 ●入場者数：20名 ●事業内容：公開レッスンの受講生による演奏公演。 
				<p>【スタインウェイピアノ演奏体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日程：8月4日(水)午前9時30分～午後5時20分 ●会場：希望ホール大ホール ●参加者数：9名 ●対象：特別講座に参加された方のうち、事前に演奏体験を希望した方 ●参加料：無料 ●事業内容：特別講座に参加された方のうち、事前に演奏体験を希望した方を対象としたスタインウェイピアノの演奏体験。

酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・体験・鑑賞】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>3 学校教育における文化芸術活動の充実</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化</p> <p>12 多様な分野との連携及びネットワークづくり</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p>アーティスト・イン・レジデンス事業 (ダンス)</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 国内を代表する実演家が地域に一定期間滞在し、地域の小学校でのクラスコンサートやワークショップ、そして環境の整った希望ホールでの公演を行うことで、</p> <p>・子どもたちが居住する地域・生活環境の差異無く、慣れ親しんだ環境で気軽に芸術にふれる機会を創出する。</p> <p>・質の高い芸術を積極的に教育現場に取り入れ、子どもたちが芸術にふれる機会を創出することで、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する。</p> <p>・子どもたちの感性を刺激し、他者への寛容性、想像力、創造力、コミュニケーション力を育む。</p> <p>・実演家がアウトリーチで本市に滞在した後、再度本市を訪れ、希望ホールでのワークショップ、公演・リサイタルを行うなど、多角的に継続して市民に芸術の魅力を発信することで、1度限りの「点」ではなく、「線」から「面」へと繋がりが広がる事業展開を図る。</p>	<p>【特別支援学校ダンスワークショップ】</p> <p>●日程：令和3年9月24日(金)午後9時～午後2時</p> <p>●会場：酒田特別支援学校</p> <p>●参加者数：89名(児童生徒59名 教職員30名)</p> <p>●対象：児童生徒 教職員</p> <p>●講師：中村蓉 アシスタントダンサー：田花遥</p>  <p>【公募ダンスワークショップ】</p> <p>●日程：令和4年2月3日(木)開場：午後6時 開始：午後6時30分</p> <p>●会場：希望ホール大ホール(ステージ上)</p> <p>●参加者数：15名(申込者19名)</p> <p>●対象：中学生以上(ダンス経験不問) ●定員／20名</p> <p>●入場料：無料</p> <p>●講師：中村蓉氏 アシスタントダンサー：田花遥氏、仙優奈氏</p>  <p>【ダンス公演】</p> <p>●日程：令和4年2月6日(日)開場：午後1時30分 開演：午後2時</p> <p>●会場：希望ホール大ホール(舞台上舞台)</p> <p>●対象：小学生以上</p> <p>●入場料：S席一般2,000円 U25・1,000円 酒田・鶴岡公演セット券一般3,000円 U25・1,500円</p> <p>●入場者数：60名(一般49名、U25 8名、招待3名) ※完売/コロナ対策により、50%販売：定員50名、追加5席、5名立ち見)</p> <p>●発券数：60枚</p> <p>●入場率：100%</p> <p>●振付・構成・出演：中村蓉 出演：仙優奈、田花遥 映像：中瀬俊介(B a o b a b)</p> 

酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・体験】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>6 市民との協働・共創による事業展開</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p>アートスタート事業 (ペタペタ！ ワクワク！ ミライのさかたを つくっちゃおう！)</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 幼いころからアートとふれ合う機会を提供することで、アートを身近に感じ、子どもたちの想像力を育むことを目的とする。</p>	<p>【ペタペタ！ワクワク！ミライのさかたをつくっちゃおう！】 ●日程：7月24日(土)午前10時～午前11時 10月9日(土)午前10時～午前11時 ●会場：希望ホール小ホール ●参加者数：1回目 子ども 13名、保護者 12名 (12組の親子) 2回目 子ども 8名、保護者 7名 (7組の親子) ●対象：3～6歳の子供とその保護者 ●参加料：無料 ●講師：rikko 氏(りっこ)(イラストレーター) ●事業内容：大きな紙いっぱいに「未来の酒田」の地図を描くワークショップ</p> 
	<p>アートスタート事業 (おんがくとえほん のおへや)</p>			<p>【おんがくとえほんのおへや】 ●日程：6月23日(水)午前10時～午前11時 6月30日(水)午前10時～午前11時 ●会場：希望ホール小ホール ●参加者数：1回目 子ども11名、保護者10名(10組の親子) 2回目 子ども10名、保護者10名(10組の親子) ●対象：0歳～2歳児とその保護者 ●参加料：無料 ●講師：加藤 真知子氏(元県家庭教育アドバイザー) 加藤 千鶴 氏(リトミックスタジオPassage主宰) ●事業内容：リトミックと絵本の読み聞かせを中心とする。 音楽によって遊び活動する中で、音楽の楽しさ、心地よさを味わう。 絵本を通して言葉や絵の楽しさを味わい、絵本に興味や親しみの気持ちをもってもらう。</p> 

酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・鑑賞】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>6 市民との協働・共創による事業展開</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>12 多様な分野との連携及びネットワークづくり</p> <p>13 文化財等の地域資源の活用</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p style="text-align: center;">SAKATA アートマルシェ2021</p>	<p style="text-align: center;">-</p>	<p>●目的</p> <p>郷土が生んだアート、長い歴史の中で受け継がれてきた伝統文化に焦点をあて郷土愛の醸成、伝統芸能等の保存・継承を目的とする。</p> <p>また、地域で活動する演奏団体によるコンサートや、参加型の多彩なイベントを開催することで、幅広い市民が気軽に集い、文化芸術にふれる機会の創出、文化施設の魅力を再認識してもらうきっかけづくりにつなげる。</p> <p>「社会包摂と育成」の方針に基づき、文化活動をしている市民、まちづくりに携わる市民・学生、障がい者施設の職員の皆様等と共に考え協働しながら、共生社会を目指す。</p>	<p>[各種イベント]</p> <p>●日程：9月18日(土)・19日(日)・20日(月・祝)</p> <p>●会場：酒田市公益研修センター、酒田市出羽遊心館、酒田市美術館</p> <p>●入場料：無料</p> <p>●内容：</p> <p>○佐藤タカヒロ漫画原画展 9月14日(火)～26日(日)来場者1,640名</p> <p>○トークイベント「漫画家 佐藤タカヒロを語る」 9月19日(日)来場者120名</p> <p>出演：株式会社秋田書店 週刊少年チャンピオン編集部 松岡秀和氏 さかた文化財団 学芸員 井上瑠奈氏</p> <p>○ワークショップ【かわいくておいしい！アイシングクッキーを作ってみよう！】 9月18日(土)参加者60名 講師：佐藤あみ氏</p> <p>○ワークショップ【しかけがいっぱい！コロコロ迷路をつくろう！】 9月18日(土)参加者43名 講師：松村泰三氏</p> <p>○酒田吹奏楽団ミニコンサート 9月20日(月・祝)来場者150名</p> <p>○酒田舞娘による演舞 9月20日(月・祝)来場者37名</p> <p>○黒森歌舞伎上演 9月20日(月・祝)来場者35名</p> <p>[企画展 いいいろいろ展]</p> <p>●日程：9月18日(土)～26日(日)</p> <p>●会場：酒田市出羽遊心館</p> <p>●入場料：無料</p> <p>●出品者：酒田市出身の画家佐藤真生氏、酒田市内の障がいのある方</p> <p>●出品数：障がいのある方々が制作した、絵画、書道、造形物など126点 のアート作品、本出身の作家 佐藤真生氏と障がいのある方々との共同作品</p> <p>●入場者数：652名</p>



文化芸術推進事業概要

参考資料

酒田市文化芸術推進計画／基本的施策	事業名等	助成団体	事業目的	事業概要
<p>【参加・体験】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>3 学校教育における文化芸術活動の充実</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p>	<p>工藤俊幸氏による 合唱指導</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 指揮者の工藤俊幸氏から、合唱指導を受ける機会を提供し、市内中学生のモチベーションアップとレベルアップを目指す動機付けとなることを目指す。</p>	<p>●日程：10月12日(火)～14日(木)、19日(火)～21日(木)</p> <p>●会場：各中学校</p> <p>●参加者数：648名(東部中学校71名、酒田第二中学校96名、酒田第六中学校96名、酒田第一中学校137名、鳥海八幡中学校74名、酒田第三中学校174名)</p> <p>●対象：合唱指導を希望する市内中学校3年生</p> <p>●講師：工藤俊幸氏</p> <p>●事業内容：工藤俊幸氏による合唱指導(クラス単位。各クラス原則30分間。)</p> 
<p>【参加・体験】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手の育成</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p>	<p>山形交響楽団 楽器クリニック</p>	<p>一般財団法人 地域創造</p>	<p>●目的 県内唯一のプロオーケストラである山形交響楽団の奏者から楽器の奏法について基礎から学ぶことで、レベルアップを目指す。</p>	<p>●日程：11月28日(日)</p> <p>●会場：酒田市総合文化センター</p> <p>●参加者数：59名</p> <p>●対象：飽海地区吹奏楽連盟に所属する中学校・高等学校の吹奏楽部員</p> <p>●参加料：500円</p> <p>●講師：山形交響楽団員(トロンボーン、ホルン、チューバ、打楽器、フルート、クラリネット)</p> <p>●事業内容：楽器ごとの奏法指導、吹奏楽の全体合奏指導、アンサンブルの奏法指導</p> 
<p>【鑑賞】</p> <p>2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備</p> <p>10 文化芸術による社会包摂</p> <p>15 文化施設の活用</p>	<p>宝くじ文化公演 (HAPPY JAZZ HOUR)</p>	<p>一般財団法人 自治総合センター 宝くじ助成</p>	<p>●目的 広く市民が親しみやすい分野で人気の高い公演を、宝くじ文化公演事業を活用することで、多くの市民に鑑賞の機会を提供する。</p>	<p>●日程：2月24日(木)午後6時30分開演</p> <p>●会場：希望ホール大ホール</p> <p>●入場者数：545名(一般531名、高校生以下11名、招待3名)</p> <p>●発券数：586枚</p> <p>●入場率：93%</p> <p>●入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下1,000円(当日1,500円)</p> <p>●出演：渡辺香津美(ジャズギター)、須川展也(サクソフォン) 奥村愛(ヴァイオリン)、井上陽介(ベース)、奥村愛ストリングス8名</p> <p>●事業内容：宝くじ文化公演事業を活用したコンサート</p> 
<p>【人材育成】</p> <p>4 将来の文化芸術の担い手育成</p> <p>5 文化芸術活動を支える人材の育成</p> <p>6 市民との協働・協創による事業展開</p>	<p>サポーター向け 研修事業</p>	<p>-</p>	<p>●目的 本市の文化芸術事業の様々な場面で、その運営に協力し支えとなって活躍する、サポーター人材を育成する。</p>	<p>●日程：第1回 7月22日(木・祝日) 第2回 8月7日(土) 第3回 10月30日(土)※3回全て 午後2時～午後4時30分</p> <p>●会場：希望ホール</p> <p>●参加者数：第1回 14名 第2回 11名 第3回 10名</p> <p>●対象：希望ホールサポーター登録者、酒田市社会教育文化課文化芸術係職員</p> <p>●講師：昭和音楽大学講師 角屋里子氏</p> <p>●事業内容：実際のホール運営を体験しながら、レセプション(コンサートホールの受付や案内を担当するスタッフ)としての心構えや実技を学ぶ研修会</p> 

基本的施策1 文化芸術活動を行う環境の整備

事業名等	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポート整備事業	図書館	文化芸術イベントを行うことを想定した企画コーナーを作ること	○企画コーナーとして必要な展示パネル等の各種什器の納入を行った。 ●納入什器等を生かした配置等の工夫が必要。また、令和4年度夏のグランドオープンに向け、イベントも可能な広場の整備を行う。	継続
コミュニティ振興事業	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動に、ひとり暮らし総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。(R1年度より人材育成のための加算を設定)	継続
松山の宝推進事業	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、限られた事業実施であったが、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナウイルス対策により中止あるいは制限の中での実施となっている。	継続
生涯学習推進講座開催事業	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍において、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとっての講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫構築を実施	企画展(6回)やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
文化施設長寿命化対策事業	社会教育文化課	酒田市公共施設適正化計画及び実施計画に基づき、写真展示館、酒田市美術館、市民会館の長寿命化対策事業を実施する。	酒田市民会館について、安全性の向上及び機能の劣化防止等の対策を行った。(外壁修理、舞台設備修理)	継続
写真展示館管理事業	社会教育文化課	酒田市写真展示館(土門拳記念館)の管理運営を指定管理者である(公財)土門拳記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門拳の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R3年度入館者数:13,925人)	継続
市民芸術祭開催事業	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R3年度参加団体数:27団体1個人 入場者数:11,904人)	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続
文化財保存活動支援事業	社会教育文化課	指定文化財所有者、保存団体への保存支援を行う。	●コロナ禍で活動が制限されたために、終息後に保存団体のモチベーション維持するための支援の方策。	内容変更
史跡旧館屋修復事業	社会教育文化課	経年劣化した史跡旧館屋の保存修理を行う。	●コロナ禍で国・県の予算が厳しい状況になっており、このままでは工事期間にも影響があるために新たな財源の確保が必要。	継続
光丘文庫デジタルアーカイブ事業	図書館	光丘文庫デジタルアーカイブのコンテンツを拡充させる。	○コンテンツ拡充により、郷土史への関心を高め光丘文庫所蔵資料の価値をわかりやすく情報発信をすることができた。 ●未来を担う小・中学生の郷土史への関心を高めるため、ふるさと教育を視野に入れた若年者向けコンテンツを整備し、周知を図っていく必要がある。	継続

基本的施策2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備

事業名等	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポート整備事業(再掲)	図書館	アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供、ミライコとしての企画イベントの実施	○駐車場が整備されておらず、また感染症対策が求められる中、積極的にイベントを実施することができなかったが、エガワラウジ等の開放エリアにおいて、小規模ながらも展示コーナーの設置等を行った。 ●状況に応じたイベントの開催方法の模索、社会教育文化課など他課事業連携によるイベント開催	継続
市民協働・公益活動推進事業	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○R3年度には以前より検討を進めていた市担当課と公益活動団体が相互に提案しあい、協働して事業を進めていく「公益活動団体協働提案負担金制度」を導入し、コロナ禍の中であったが、他課と連携しながら公益活動の推進に努めた。 ●今後は地域や団体のリーダーの育成、小中学生のボランティア教育につながる研修会の充実を図っていく必要がある。	継続
地域活動支援センター事業	福祉課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みづはにを通して作業訓練等をおこなひ、教室型では身体障害者福祉センターに遷して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナウィルスの発生状況により、教室や講座開催の中止が多かった。みづはもコロナのために外出を控えている利用者もいたが、感染症対策をしながら通所を続けている。 ●コロナウィルスの発生状況により、当初予定していた教室が中止になり、障がい者の社会活動の機会が減った。	継続
老人クラブ助成事業	福祉課	地域を基盤として活動する老人クラブに対し、教養講座等の開催、参加にかかる費用の助成を行う。	○クラブの解散や新規会員の減少により会員数の減少が続いている。R3 8977 3,468人。 ●コロナウィルスの影響により、当初予定していた活動が中止になる等老人クラブ活動の機会が減った。また、定年退職年齢の引き上げ等により、老人クラブ会員数の確保が困難になっている。	継続
ブックスタート支援事業	図書館	赤ちゃんとふれあひのきつかけとなる読み聞かせと親子のふれあひ、読み聞かせの仕方を3か月児健診時に行うとともに絵本2冊を配布する。	○事業説明とともに絵本を提供することで、親子のふれあひを促し、幼少期から本に親しむ習慣づけを図った。 ●新型コロナウイルスの影響により、子どもとふれあひながら行う読み聞かせの仕方の実践指導が中止されたことで、絵本配布の場となり、事業の主たる目的が十分に達成できない状況が続いている。 ●採入手である読み聞かせボランティアが不足している。	継続
地域振興事業	八幡総合支所	地元の団体による各種作品展、ステージ発表会を開催し住民同士の参加交流の場を提供する。 クラックコンサートの開催や百人一首かるた大会を開催し、音楽、芸術に触れる場、体験する場を提供する。	○八幡地区の芸術文化を鑑賞する機会や発表・交流・競技の場として、一定の参加団体や観客数を得て地域に定着している。令和3年度はクラックコンサート、やわた文化祭展示部門は開催したが、新型コロナウイルスの影響により、やわた文化祭ステージ部門、百人一首かるた大会は中止となった。 ●少子高齢化に伴う参加団体・参加者の減少。	継続
地域振興事業	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の芸術文化活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
地域振興事業	平田総合支所	誰もが文化芸術に親しむことが出来るよう、ひらた文化祭(各種作品展、ステージ発表会)を開催する。	○新型コロナウイルス感染症の影響でひらた文化祭は展示部門のみになったものの、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら日本の芸能を楽しむ会を開催した。多くの来場者が訪れ、地域の芸術文化に触れる機会の提供ができた。 ●ひらた文化祭については住民の関わり方を見直しつつ、芸術文化協会平田支部へ事務等の移行を進める必要がある。	継続
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍において、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとっての講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業(再掲)	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫構築を実施	企画展(6回)やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
写真展示館管理事業(再掲)	社会教育文化課	酒田市写真展示館(土門拳記念館)の管理運営を指定管理者である(公財)土門拳記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門拳の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R3年度入館者数:13,925人)	継続
酒田市文化芸術推進事業(再掲)	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校外のアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展(障がい者アート)を開催する等、コロナ禍でも実施できる工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた。 ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業(再掲)	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R3年度参加団体数:27団体1個人 入場者数:11,904人)	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続

令和3年度事業の成果と課題

文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課	指定文化財所有者、保存団体への保存支援を行う。	●コロナ禍で活動が制限されたために、終息後に保存団体のモチベーション維持するための支援の方策。	内容変更
未来へ受け継ぐ伝統文化はくみ事業	社会教育文化課	1月に民俗芸能フェスタを開催を行った	●新型コロナウイルスが終息後に、来場者を増加させるための方策	廃止
子ども読書活動推進事業	図書館	各種講座等の実施により、子どもたちの身近にいる大人たちが子どもと本をつなぎ、子どもたちが幼少期より本に親しむことができるよう支援を図る。 年代ごとのおすすめ本リスト・おたより、3か月の乳児、保育園・幼稚園児、小学生及び中学生1年生に読書手帳を配布し、家庭での読書習慣の醸成、本とおした家族のコミュニケーションが深まるよう支援する。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった講座等もあったが、対策を取りながら可能な限り実施し、子どもたちが幼少期より本に親しむことができるよう支援した。 ○まちづくり推進課の協働事業を介し、酒田南高校絵本の会に協力しおはなし会を開催した。 ○年代ごとに、「絵本だより」「市立図書館★本だより」「うちどくだより」、「家読（うちど）おすすめ本リスト」を配布した。また、3か月の乳児、保育園・幼稚園児、小学生及び中学生1年生に読書手帳を配布した。 ●家庭での読書習慣を醸成し、図書館利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。	継続

基本的施策3 学校教育における文化芸術活動の充実

事業名等	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)	次年度以降の方向性
未来へ受け継ぐ伝統文化はくみ事業（再掲）	社会教育文化課	1月に民俗芸能フェスタを開催を行った	●新型コロナウイルスが終息後に、来場者を増加させるための方策	廃止
小学生観劇教室	学校教育課	小学6年生対象の劇団四季によるミュージカル。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、「動画配信」という形式で実施する旨の連絡があった。酒田市は実施せず。	●劇団四季より、令和3年度から当面の間、「動画配信」という形で実施していくとの通達があった。酒田市としては、従来の生で演劇を鑑賞するよさを重視することから、実施しないこととした。次年度以降「動画配信」の場合は、実施しない方向で考えている。	
小中学校音楽教室支援事業	学校教育課	市内の希望する小中学校を対象に、山形交響楽団による音楽教室（スクールコンサート）を実施する。令和3年度は、小学校は7校、中学校は2校の実施だった。	○密を避けるため、希望ホールでは複数校が接触しない座席の配置、移動の仕方を計画し、実施することができた。 ○自校体育館での開催予定だった学校は、より広い会場に場所を変更し、実施することができた。 ●コロナ禍のため、実施を見送る学校もあり、児童生徒に生の演奏に触れる機会が失われた。	
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できる工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
文化活動重点事業	学校教育課	小・中学校が行う次の活動を支援する。 ・中学校における吹奏楽合同演奏会の実施 ・外部講師招聘による中学校の合唱活動の充実 ・小学校における日本の伝統音楽（お琴）にふれる体験学習の充実	○希望ホールで中学校における吹奏楽合同演奏会が実施できた。 ●小学校におけるお琴教室と中学校の合唱活動への外部講師招聘は新型コロナウイルス感染症防止のため、実施できなかった。	

基本的施策4 将来の文化芸術の担い手の育成

事業名等	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	図書館	・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供（当該が主体として取り組むというよりも場の提供として協力するという考え） ・育成としては、中央図書館移転後の文化芸術資料の充実、レファレンスの充実など	○取り組んでいない。 ●今後、指定管理の中で具体的に策の検討が必要。	継続
八幡地域文化振興事業	八幡総合支所	酒田・鶴岡・庄内町・遊佐など庄内地域の小・中学生、高校生、大学生などの若者に八幡のイベントに参加してもらい、文化芸術に触れることで将来の文化芸術の担い手育成を図る。	○中止となった百人一首きたる大会では八幡地区外の酒田・鶴岡市内の小・中学生、高校生合わせて39人の参加応募があり、出場予定だった。 ●少子化に伴う参加者の減少、大会の周知不足。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍にあって、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとった講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である（公財）酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品（油彩画）の修復と収蔵庫構築を実施	企画展（6回）やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市写真展示館（土門拳記念館）の管理運営を指定管理者である（公財）土門拳記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門拳の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。（R3年度入館者数：13,925人）	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できる工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課	指定文化財所有者、保存団体への保存支援を行う。	●コロナ禍で活動が制限されたために、終息後に保存団体のモチベーション維持するための支援の方策。	内容変更
未来へ受け継ぐ伝統文化はくみ事業（再掲）	社会教育文化課	1月に民俗芸能フェスタを開催を行った	●新型コロナウイルスが終息後に、来場者を増加させるための方策	廃止

基本的施策5 文化芸術活動を支える人材の育成

事業名等	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	図書館	・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供（当該が主体として取り組むというよりも場の提供として協力するという考え） ・育成としては、中央図書館移転後の文化芸術資料の充実、レファレンスの充実など	○取り組んでいない。 ●今後、指定管理の中で具体的に策の検討が必要。	継続
コミュニティ振興事業（再掲）	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に對する活動に、ひとりごと・まちづくり総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。（R1年度より人材育成のための加算を設定）	継続
八幡地域文化振興事業（再掲）	八幡総合支所	地区内だけでなく、地区外の若者などこれからの文化芸術を担う人材の交流・学びの場を提供する。	○中止となった百人一首きたる大会では八幡地区外の酒田・鶴岡市内の小・中学生、高校生合わせて39人の参加応募があり、出場予定だった。 ●少子化に伴う参加者の減少、大会の周知不足。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍にあって、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとった講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である（公財）酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品（油彩画）の修復と収蔵庫構築を実施	企画展（6回）やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業	社会教育文化課	芸術、学術分野等の活動において優れた成果をあげた個人又は団体を顕彰し、庄内地方の芸術、文化の振興に寄与することを目的とする。	庄内文化賞、阿部次郎文化賞共に規則に基づき、芸術、学術等の分野で優れた業績のあった者に対し、顕彰した。	継続
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市写真展示館（土門拳記念館）の管理運営を指定管理者である（公財）土門拳記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門拳の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。（R3年度入館者数：13,925人）	継続

士門拳文化賞顕彰事業	社会教育文化課	士門拳が生涯を通じて追求したドキュメンタリー、メッセージ性の高い組写真の公募展を通じ、日本の写真文化の向上に寄与してきた。	故士門拳氏の偉大な功績を記念するとともに、写真文化、写真芸術の振興に寄与するため、国内の写真愛好家を対象に写真を公募した。公募の結果、全国各地から124人、128点の応募があり、選考の結果、士門拳文化賞（1名）と同奨励賞（3名）を授与した。	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課	指定文化財所有者、保存団体への保存支援を行う。	●コロナ禍で活動が制限されたために、終息後に保存団体のモチベーション維持するための支援の方策。	内容変更

基本的施策6 市民との協働・共創による事業展開

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続

基本的施策7 地域コミュニティとの連携による文化的環境づくり

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
コミュニティ振興事業（再掲）	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に對する活動に、ひとりまちづくり総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。（R1年度より人材育成のための加算を設定）	継続
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所	八幡4地区のコミュニティ振興会と連携することで、地元の方が参加しやすい環境を作り、より多くの参加者確保を図る。	○やわた文化祭展示部門において、八幡4地区のコミュニティ振興会女性部が制作した手芸品などを展示した。 ●高齢化に伴う参加者の減少。	継続
地域振興事業（再掲）	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
松山の宝推進事業（再掲）	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、限られた事業実施であったが、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナウイルス対策により中止あるいは制限の中での実施となっている。	継続
地域振興事業（再掲）	平田総合支所	文化的環境づくりのため、各コミュニティ振興会が行う文化祭等について平田地域版の広報「ひらたタウンニュース」にて周知する。	○新型コロナウイルス感染症の影響でコミュニティ振興会の文化祭は砂越・砂越緑町振が作品展示のみ実施したが、その他コミュニティ振興会は今年も中止の判断に至った。 ●新型コロナウイルス感染症への懸念から、他地域からの来場について、各コミュニティ振興会に確認する必要がある。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍において、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとっての講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。受講料の見直し等。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続

基本的施策8 文化芸術による国際交流

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
国際交流推進事業	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。オンラインによる交流となった。 ●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。	継続
客船誘致事業	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客（乗船客）を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●感染症対策を徹底した安全・安心な受入れの再開が必要。	継続
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所	国際交流を見据えた活動がないため特になし。		
青少年国内外交流事業	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部はオンラインで交流した。	継続
「少年の翼」交流事業	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和3年度の実施を中止した。	継続

基本的施策9 専門性の高い文化の仕掛け人の配置

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	専門性の高い文化の仕掛け人（アートコーディネーター）を配置し文化芸術の視点を活かした効果的な事業展開を行う	○社会教育文化課にアートコーディネーターを配置し、文化芸術推進事業の助言及びプロデュースを行った ●文化芸術推進事業に限らず、総合的な事業に助言できる体制の構築が必要	継続

基本的施策10 文化芸術による社会包摂

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
老人クラブ助成事業（再掲）	福祉課	地域を基盤として活動する老人クラブに対し、教養講座等の開催、参加にかかる費用の助成を行う。	○クラブの解散や新規会員の減少により会員数の減少が続いている。R3 89577 3,468人。 ●コロナ禍の影響により、当初予定していた活動が中止になる等老人クラブ活動の機会が減った。また、定年退職年齢の引き上げ等により、老人クラブ会員数の確保が困難になっている。	継続
ブックスタート支援事業（再掲）	図書館	赤ちゃんとのふれあいのきっかけとなる読み聞かせと親子のふれあい、読み聞かせの仕方を3か月児健診時に行うとともに絵本2冊を配布する。	○事業説明とともに絵本を提供することで、親子のふれあいを促し、幼少期から本に親しむ習慣づけを図った。 ●新型コロナウイルスの感染予防のため、子どもとふれあいが行う読み聞かせの仕方の実践指導が中止されたことで、絵本配布の場となり、事業の主たる目的が十分に達成できない状況が続いている。 ●担い手である読み聞かせボランティアが不足している。	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
子ども読書活動推進事業（再掲）	図書館	各種講座等の実施により、子どもたちの身近にいる大人たちが子どもと本をつなぎ、子どもたちが幼少期より本に親しむことができるよう支援を図る。 年代ごとのおすすめ本リスト・おたより、3か月の乳児、保育園・幼稚園児、小学生及び中学生1年生に読書手帳を配布し、家庭での読書習慣の醸成、本とおたより家族のコミュニケーションが深まるよう支援する。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった講座等もあったが、対策を取りながら可能な限り実施し、子どもたちが幼少期より本に親しむことができるよう支援した。 ○まちづくり推進課の協働事業を介し、酒田南高校絵本の会に協力しおたより会を開催した。 ○年代ごとに、「絵本だより」「市立図書館★本だより」や「うちどくだより」、「家読（うちど）おすすめ本リスト」を配布した。また、3か月の乳児、保育園・幼稚園児、小学生及び中学生1年生に読書手帳を配布した。 ●家庭での読書習慣を醸成し、図書館利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。	継続

基本的施策11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
------	-----	------	-------------	-----------

市民協働・公益活動推進事業（再掲）	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○R3年度には以前より検討を進めていた市担当課と公益活動団体が相互に提案しあい、協働して事業を進めていく「公益活動団体協働提案負担金制度」を導入し、コロナ禍の中であったが、他課と連携しながら公益活動の推進に努めた。 ●今後は地域や団体のリーダーの育成、小中高生のボランティア教育につながる研修会の充実を図っていく必要がある。	継続
地域活動支援センター事業（再掲）	福祉課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みづばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナウィルスの発生状況により、教室や講座開催の中止が多かった。みづばもコロナのために外出を控えている利用者もいたが、感染症対策をしながら通所を続けている。 ●コロナウィルスの発生状況により、当初予定していた教室が中止になり、障がい者の社会活動の機会が減った。	継続
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所	やわた文化祭や百人一首かるた大会など若年層から高齢者の方まで幅広い年代の方が参加し交流できる場を提供する。	○やわた文化祭や百人一首かるた大会は、八幡地区の幅広い年代の地域住民が参加するイベントとして定着している。 ●少子高齢化に伴う参加団体、参加者の減少。	継続
地域振興事業（再掲）	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組みることができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
地域振興事業（再掲）	平田総合支所	平田地域のゆかりの文化・芸術を活かしたイベントを開催し、地域の宝に触れる機会を提供する。	○平田出身の彫刻家石黒光二氏の作品であるブロンズ像を巡る「スツアールと、平田在住の水彩画家あべとしゆき氏と本市出身の活動家土佐々木亜希子氏による「水彩画と活弁」を開催し、芸術文化に触れる機会の提供ができた。 ●新型コロナウイルス感染症への懸念から、県外在住の講師や他地域からの来場、開催時期等について十分に検討しながら実施する必要がある。	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍にあって、除菌装置の導入、消毒と換気の徹底、バスで移動する現地学習を極力避けるなどの対策をとっての講座の実施。 ○「withコロナ」社会の生涯学習としての講座テーマの工夫。具体的には、健康維持、免疫力、自然に触れてリフレッシュする講座等の実施。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。受講料の見直し等。	継続

基本的施策 1 2 多様な分野との連携及びネットワークづくり

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
市民協働・公益活動推進事業（再掲）	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○R3年度には以前より検討を進めていた市担当課と公益活動団体が相互に提案しあい、協働して事業を進めていく「公益活動団体協働提案負担金制度」を導入し、コロナ禍の中であったが、他課と連携しながら公益活動の推進に努めた。 ●今後は地域や団体のリーダーの育成、小中高生のボランティア教育につながる研修会の充実を図っていく必要がある。	継続
国際交流推進事業（再掲）	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。オンラインによる交流となった。 ●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。	継続
地域活動支援センター事業（再掲）	福祉課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みづばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナウィルスの発生状況により、教室や講座開催の中止が多かった。みづばもコロナのために外出を控えている利用者もいたが、感染症対策をしながら通所を続けている。 ●コロナウィルスの発生状況により、当初予定していた教室が中止になり、障がい者の社会活動の機会が減った。	継続
客船誘致事業（再掲）	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客（乗船客）を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●感染症対策を徹底した安全・安心な受入れの再開が必要。	継続
青少年国内外交流事業（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部はオンラインで交流した。	継続
「少年の翼」交流事業（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和3年度の実施を中止した。	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続

基本的施策 1 3 文化財等の地域資源の活用

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
国際交流推進事業（再掲）	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。オンラインによる交流となった。 ●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。	継続
旧割烹小幡整備検討事業	交流観光課	日和山・台町エリアの観光誘客のため、平成24年度に寄附を受けた旧割烹小幡を、日和山界隈の観光拠点として整備することを平成29年度に決定した。	○本工事は令和2年度で、外構工事も3年度で完成し、日和山交流観光拠点施設（日和山小幡樓）として3年10月にオープンした。	廃止
北前船寄港地交流推進事業	交流観光課	北前船日本遺産推進協議会は、日本遺産に認定された「荒波を超えた男たちの夢が訪れた異空間～北前船寄港地・船主集落～」(以下「北前船寄港地」という。)を活用し、加盟自治体及び団体の連携のもと、観光振興及び地域活性化の推進を図ることを目的に、平成29年5月11日設立された。	○3年度末で48市町が加盟。3月に秋田県でフォーラムが開催された。 ●加盟市町が増加し、コロナ禍でもあえて会全体としての活動がやや停滞している。ブロックごとの活動にするとかの推進の手法が課題である。	継続
八幡地域文化振興事業（再掲）	八幡総合支所	八幡地区の伝統芸能を後世に繋いでいくために伝統芸能や文化財などを披露する場を設け、伝統芸能や文化財に触れることのできる場を提供する。	○八幡地区の伝統芸能を発表する場である文化祭は、新型コロナウイルスのためステージ部門が中止となった。展示部門では、八幡地区の華道の団体が作品の展示を行った。 ●高齢化に伴う参加団体、参加者の減少。	継続
地域振興事業（再掲）	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組みることができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
松山の宝推進事業（再掲）	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、限られた事業実施であったが、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナウイルス対策により中止あるいは制限の中での実施となっている。	継続
青少年国内外交流事業（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部はオンラインで交流した。	継続
地域振興事業（再掲）	平田総合支所	平田地域の地域資源を活用した各種事業を各団体と連携して実施する。	○県指定無形民俗文化財「新山延年舞」は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 ○旧阿部家を会場に四季折々の行事を開催しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、「旧阿部家の会」の呈茶のみ実施した。 ●伝統芸能を保存継承する後継者が減少しているため、後継者の育成が必要である。	継続
「少年の翼」交流事業（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」（再掲）	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和3年度の実施を中止した。	継続

酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○講座内容、回数、定員等の見直しにより、コロナ禍に対応し実施した。 ●コロナ禍の状況がしばらく続くことを考慮した事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討。	継続
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐみ事業（再掲）	社会教育文化課	1月に民俗芸能フェスタを開催を行った	●新型コロナウイルスが終息後に、来場者を増加させるための方策	廃止
史跡旧屋修復事業（再掲）	社会教育文化課	経年劣化した史跡旧屋の保存修理を行う。	●コロナ禍で国・県の予算が厳しい状況になっており、このままでは工事期間にも影響があるために新たな財源の確保が必要。	継続
光丘文庫デジタルアーカイブ事業（再掲）	図書館	光丘文庫デジタルアーカイブのコンテンツを拡充させる。	○コンテンツ拡充により、郷土史への関心を高め光丘文庫所蔵資料の価値をわかりやすく情報発信をすることができた。 ●未来を担う小・中学生の郷土史への関心を高めるため、ふるさと教育を視野に入れた若年者向けコンテンツを整備し、周知を図っていく必要がある。	継続

基本的施策 14 酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
山居倉庫周辺整備事業	都市デザイン課	中心市街地において山居倉庫周辺エリアの魅力、観光交流機能の向上を図ることにより民間の投資を呼び込み、エリアの価値向上を図るための取組みを行う。	○酒田商業高校跡地について、中心市街地の活性化と未利用地の有効活用を図るため、民間の資金やアイデアを活用し、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的な賑わいが生まれる機能を整備するため、令和3年度は基本構想の策定及び公表、校舎等の解体工事実施、跡地を整備する事業者募集を開始した。 ●令和4年6月以降に基本協定及び事業用定期借地権設定契約を締結予定	継続
さかたらしい景観づくり事業	都市デザイン課	酒田市景観計画および酒田市景観条例を策定し、良好な景観形成の推進・誘導を図るとともに、本市の景観を特徴付ける特に重要な地域を景観形成重点地域に指定し、景観助成金等により魅力的な景観づくりを行う。	○一定規模を超える建築行為等について届出してもらい、酒田市景観計画で定める景観形成基準に適合するよう説明、指導し、一定程度良好な景観の保全に寄与している。 ●景観形成重点地域において基準に適合しない一般住宅の需要増にともない、景観助成金が十分に活用されていないことから、魅力的な景観づくりのための手法の再検討が必要状況である。	継続
旧割烹小幡整備検討事業（再掲）	交流観光課	日和山・台町エリアの観光誘客のため、平成24年度に寄附を受けた旧割烹小幡を、日和山界隈の観光拠点として整備することを平成29年度に決定した。	○本体工事は令和2年度で、外構工事も3年度で完成し、日和山交流観光拠点施設（日和山小幡楼）として3年10月にオープンした。	廃止

基本的施策 15 文化施設の活用

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポータル整備事業（再掲）	図書館	市内美術館等のイベント情報発信や各館の紹介を行うこと。出張展示などの模索を行う。（芸術文化に触れる場所として数層を低くする役目）	○観光案内所の運営とあわせて、パンフレット・ポスターの収集と掲示を行った。 ●市内ミュージアムコーナーの設置検討をしたが、各館との連携不足により完成に至っていない。	継続
松山にぎわい創出事業	松山総合支所	松山歴史公園を会場として「まつやま大手門くらぶとフェア」を開催するほか、イルミネーション事業を各地区で開催する。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和3年度は「まつやま大手門くらぶとフェア」を中止した。イルミネーション事業は、南部地区で実施した。 ●新型コロナウイルス対策により中止あるいは制限の中での実施となっている。	継続
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である（公財）酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品（油彩画）の修復と収蔵庫燻蒸を実施	企画展（6回）やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市写真展示館（土門學記念館）の管理運営を指定管理者である（公財）土門學記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門學の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。（R3年度入館者数：13,925人）	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課	指定文化財所有者、保存団体への保存支援を行う。	●コロナ禍で活動が制限されたために、終息後に保存団体のモチベーション維持するための支援の方策。	内容変更
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐみ事業（再掲）	社会教育文化課	1月に民俗芸能フェスタを開催を行った	●新型コロナウイルスが終息後に、来場者を増加させるための方策	廃止
史跡旧屋修復事業（再掲）	社会教育文化課	経年劣化した史跡旧屋の保存修理を行う。	●コロナ禍で国・県の予算が厳しい状況になっており、このままでは工事期間にも影響があるために新たな財源の確保が必要。	継続

基本的施策 16 伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
食習慣改善事業	健康課	酒田市広報わたしの街さかたに掲載されたレシピを中心にまとめたレシピ本「酒田ごはん」を令和元年度販売し、食文化の伝承に努めた。HPでレシピを紹介した。酒田市食生活改善推進協議会協力のもと市広報誌にレシピを掲載した。	○「酒田ごはん」は2020年1月17日に1,500冊発行し1か月で売り切れ、2020年3月27日に1,500冊増刷し、2021年2月で完売した。 ○2022年1月に1,500冊増刷することが決まり、5月20日に発売となった。 ○HPにもレシピを紹介している。 ○市外・県外の方からも購入していただき、酒田の食文化について発信した。	継続
さかた農産物消費拡大事業	農政課	・酒田市食育・地産地消推進委員会を開催し、食育・地産地消及び6次産業化の推進に関する現状や課題を委員や関係各課と共有し、第4次の「酒田市食育・地産地消計画（酒田市6次産業化戦略）」を策定した。 ・平田赤なごの栽培など、小学校等との食育交流活動を行う農業者へ酒田市食育交流活動補助金を交付した。	○委員会において、令和4年度から5年間を計画期間とする「酒田市食育・地産地消推進計画（酒田市6次産業化戦略）」を策定し、今後5年間で実行する具体的な施策や推進状況把握のための客観的な指標となる数値目標を設定した。 ○令和3年度における酒田市食育交流活動補助金の交付件数は12件。 ●新計画策定により、食育・地産地消及び6次産業化推進のための新たな取り組みが必要。	継続
酒の酒田の酒まつり事業	交流観光課	本市の売りである「地酒」を中心とした食に係るイベント等を実施し、「酒の酒田」の認知度向上と観光誘客に繋げる。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和3年度の実施を中止した。	継続
地魚ブランド力向上・安定供給推進事業	農林水産課	魚食普及・食育教室を開催し、魚食文化の継承と発信を行った。	○子育て世代ファミリーサポートセンター会員が対象のため、幼少期から魚食に親しむ環境が期待できる。 ●新型コロナウイルス対策により中止あるいは制限の中での実施となっている。	継続

基本的施策 17 観光との連携

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
酒田コミュニケーションポータル整備事業（再掲）	図書館	市内美術館等のイベント情報発信や各館の紹介を行い、旅行者や市民に周知すること	○観光案内所の運営とあわせて、パンフレット・ポスターの収集と掲示を行った。 ●各館のイベント情報の収集とその掲示方法の検討が必要。	継続
北前船寄港地交流推進事業（再掲）	交流観光課	北前船日本遺産推進協議会は、日本遺産に認定された「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(以下「北前船寄港地」という。)を活用し、加盟自治体及び団体の連携のもと、観光振興及び地域活性化の推進を図ることを目的に、平成29年5月11日設立された。	○3年度末で48市町が加盟。3月に秋田府でフォーラムが開催された。 ●加盟市町が増加し、コロナ禍でも会全体としての活動がやや停滞している。ブロックごとの活動にするとかの推進の手法が課題である。	継続
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である（公財）酒田市美術館に委託するほか、市所蔵美術品（油彩画）の修復と収蔵庫燻蒸を実施	企画展（6回）やワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。	継続
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市写真展示館（土門學記念館）の管理運営を指定管理者である（公財）土門學記念館に委託するとともに、写真作品保護のために必要な消耗品と保存用作品プリントの制作を行う。	土門學の作品展示について、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。（R3年度入館者数：13,925人）	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人 入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示あステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続

基本的施策 18 産業との連携

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
------	-----	------	-------------	-----------

客船誘致事業（再掲）	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客（乗船客）を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●感染症対策を徹底した安全・安心な受入れの再開が必要。	継続
------------	-------	--	---	----

基本的施策19 組織体制の強化

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課	舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した（R3年度参加団体数：27団体1個人、入場者数：11,904人）	○芸術文化協会に所属する各団体が各々コロナ対策を取りながら作品の展示うあステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。	継続

基本的施策20 市民の視点にたった情報発信・広報戦略

事業名等	関係課	取組状況	成果（○）と課題（●）	次年度以降の方向性
広報広聴活動推進事業	市長公室	文化芸術に関するイベントや事業を広報紙で市民に広く周知する。	文化芸術に関する事業のイベント告知や取材記事を広報に掲載し、市民への周知を図った。今後は、広報紙以外にも、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、LINEなどさまざまな広報媒体を活用することで、若年層を含めた幅広い世代に向けた情報発信を図る。	継続
土門拳文化賞顕彰事業（再掲）	社会教育文化課	土門拳が生涯を通じて追求したドキュメント性、メッセージ性の高い組写真の公募展を通じ、日本の写真文化の向上に寄与してきた。	故土門拳氏の偉大な功績を記念するとともに、写真文化、写真芸術の振興に寄与するため、国内の写真愛好家を対象に写真を公募した。公募の結果、全国各地から124人、128点の応募があり、選考の結果、土門拳文化賞（1名）と同奨励賞（3名）を授与した。	継続
酒田市文化芸術推進事業（再掲）	社会教育文化課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○小学校へのアウトリーチ、各種ワークショップ、公演事業、いろいろな展（障がい者アート）を開催する等、コロナ禍でも実施できるよう工夫し、アートとふれ合う機会を創出することができた ●コロナ禍でも市民をはじめ関係者が安心して参加できる事業の実施に向け、例年とは異なる工夫が必要であること。	継続

基本目標	評価指標	計画策定時 (平成29年度)	令和2年度	令和3年度	目標値 (令和4年度)
市民文化政策 (ひとづくり) 自由で多様性を認める 心豊かな市民生活の 実現	文化芸術活動のしやすい まちだと答える市民の割合	50.3%	35.0%	36.9%	60%
	文化芸術活動に参加した 市民の割合	27.7%	16.2%	26.9%	33%
	文化芸術活動の満足度	42.1%	25.2%	28.8%	50%
	文化芸出活動を鑑賞した 市民の割合	36.4%	28.8%	28.8%	43%
	子どもたちの文化芸術に ふれる機会に対する満足 度	31.2%	20.7%	20.2%	37%
都市文化政策 (まちづくり) 誇りをもてる 酒田らしさの創造	文化資源について誇りを もっている市民の割合	66.3%	53.1%	53.7%	79%
	多様な分野との連携事業 数	教育関係1事業 観光関係1事業 商工関係1事業	福祉関係1事業 教育関係1事業 観光関係1事業	福祉関係1事業 教育関係1事業 観光関係1事業	他分野との連携 10事業
	文化施設※に行ったこと のある市民の割合	※1 市内5施設平均 81.7%	※2 市内4施設平均 58.3%	※2 市内4施設平均 67.1%	90%

※ 1 市内5施設とは土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市民会館、酒田市総合文化センター

※ 2 市内4施設とは土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市民会館

注) 計画策定時(平成29年度)の数値については、「酒田市芸術文化振興計画(仮称)策定に伴うアンケート」(平成29年7月実施)の結果に基づくものであり、令和2年度・令和3年度の数値については、令和3年3月・令和4年3月にそれぞれ実施した市民アンケートの結果に基づくものです。